



式法秘書

三

口仁8  
1.729  
9





口仁  
1729  
3



生間流式法秘書拔萃卷之三

家元 生間正起編次

結肌帶之事

懷妊五月日吉日と撰び吉方は向ひて肌帶となは是の帶  
と結肌帶といふ世はゆハ帯といふハ即ちこれなりこの  
帯ハ一巾中子供多とありて仕合せよき女房の方へ所望い  
多はべし帯は長ハ八尺生絹禊りの白地一幅多る座し端縫せ  
ばと色と四ツは疊み紙は包み熨斗とつけ女房持参すべし其  
節右に女房と初免一家祝酒ある座し是と結肌帶の祝と云  
帯は飾様ハ廣蓋ふどよのせ飾るべし帯ハ巾より三ツ折は志  
て長と延置き其上へ新しき弓弦一掛瓊石ニツ砂少く砂ハ當

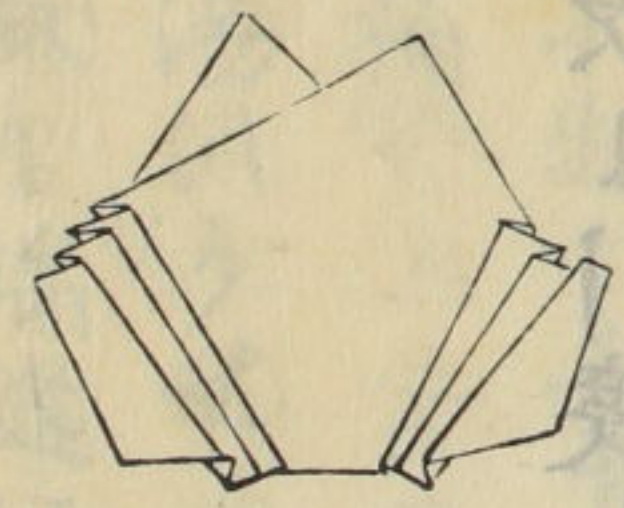
生間流式法秘書拔萃卷之三



流折形廿二番砂金包包ミ熨斗昆布とも包ミそへ床照ミ  
飾り置之屋シる石ハ木コ花ハ閨ハ郎ハ姫ハ社地ハ石宮梅の砂ハ  
神功皇后ハ社地ハ砂ハ弓弦ハ八幡宮ハ崇む意也右ハ三神  
ハ安産守護ハ御神ナリ依て結肌帯ハこの三種ハ守ト用也  
レバ障りナシ安産トなレといハやガ夫婦結肌帯ハ御  
事あり終て帯ト五ツ疊ミ夫の懐ハ入れ左の袖口ヨリ取ミ  
出シ婦人ハ渡リ婦人右ハ手ヨリ取リ右ハ袖口ヨリ懐ハ  
納て次ハ向ヘ下リ吉方ハ向ハ時右ハ女房帯トめサはシる事  
其後替帯ハ取替ヘ右ハ三種ト新キ守袋ハ納シ熨斗ハ昆  
布ト添ヘ産所ハ床ハ掛置ト屋シかクのとすレバ其子長  
喜ナレト去右結肌帯ハ裏ト付テかヨり小袖ハ仕立小

兒ハ召サはレものナりかよトり小袖ハ車ハ下ハ番ト記ハ  
下ヨりも紅木綿の帯ト産婆右如之巾ヨり三ツハ折共下  
疊ハ小口ハ丸カとレ此ハ結肌帯ハ仕様也左ハ當流折形砂  
金包ハ圖ト床飾ハ次牙ト記ハ置ト

廿二番砂金包



床飾ハ次牙

香立氣束

折于肴

結燈臺



紅白

岩組 鶴

瓶子 雄 三方

床

鏡

餅

熨斗 昆布

三方

卓香爐

同

折精進

瓶子 雌 三方

立華

結肌帶

廣蓋



帶い祝式三献い次才ハ最初口祝次ハ引渡して初献敷い子。二献契り子餅。三献子々鯛。右相濟引替ハ雜煮と出し夫々り種々の料理とも出以

吉方といふハ玉女の方といふ又年の惠方でもよし玉女の方といふハ其日戌の日をさバ戌亥子丑寅卯辰

巳午と繰り九目と玉女の方といふ聞神とハ前し如之戌と繰り三目と聞神の方といふ生着裁ハ必ず聞神と後よして玉女は向ひ裁座ハ幕と裁ハ必ずこの法と用由幕いふハこゝは要なきゆへに記さばへ土器と三献重ハ出産迄ハ用意すべき不物ハ事

煮ふ刀

壺對

押桶

壺對

煮ふ桶

壺ツ

生湯ひらせ

壺ツ

むつさ

絹一反と十二は取り端縫となは木綿にて

も同様なり

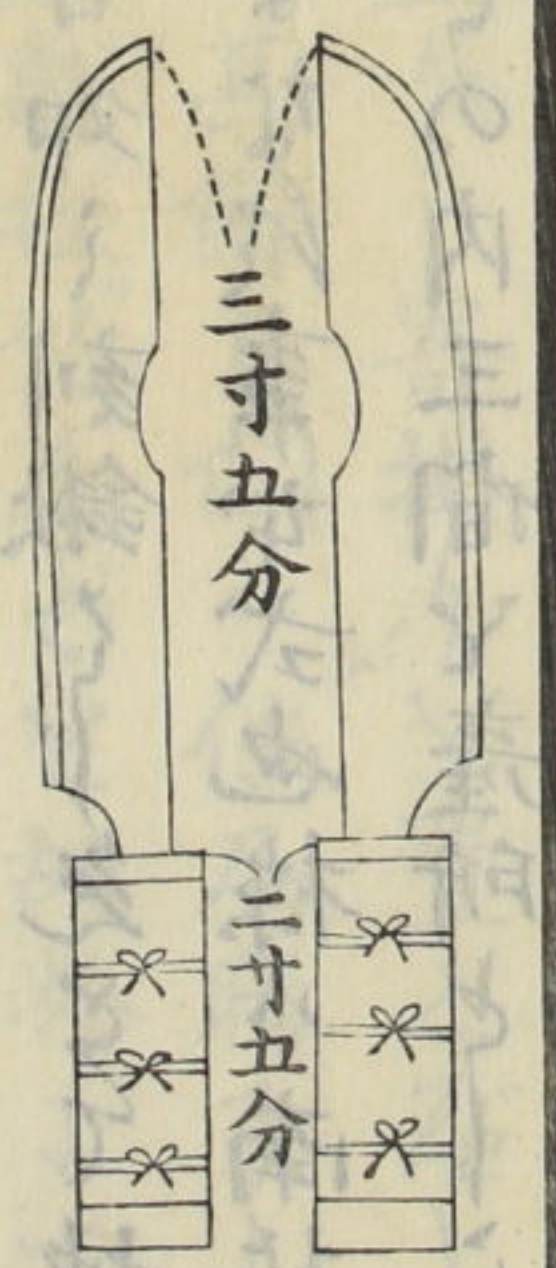
右ハ外綿。鹽類。湯こし。水出し。中柄杓。湯桶。其他産所ハ用由づき一切ハ物と用意し置之座ハ



煮な刀といふハ其の緒と切る竹刀也其の緒切といふ  
 事と忌でつどといふ其の緒と切る事ハ神代より仔細  
 傳ふ事よて日本書記神代ノ志ハ以テ竹刀截其兒臍とあり出  
 れハ火明命火酸芥命火々出見尊誕生一るハ一時ノ事なり  
 竹刀と上古ハあはれい煮といひ也其の竹刀と屋らといふ  
 ハあやまり也竹刀ノ作り換ハ一刀づゝ七刀ノ削るといへ  
 り左刀右刀と二ツ作るべし節ハ一ツ出も也其の緒つぎ換  
 ハ面の平なる青目の石浅下におき其上へ土器と三枚重祿  
 其上よてちその緒と竹刀よてちまづと也男ハ左刀女ハ右  
 刀よてつど屋一委さるハ眞ノ記に

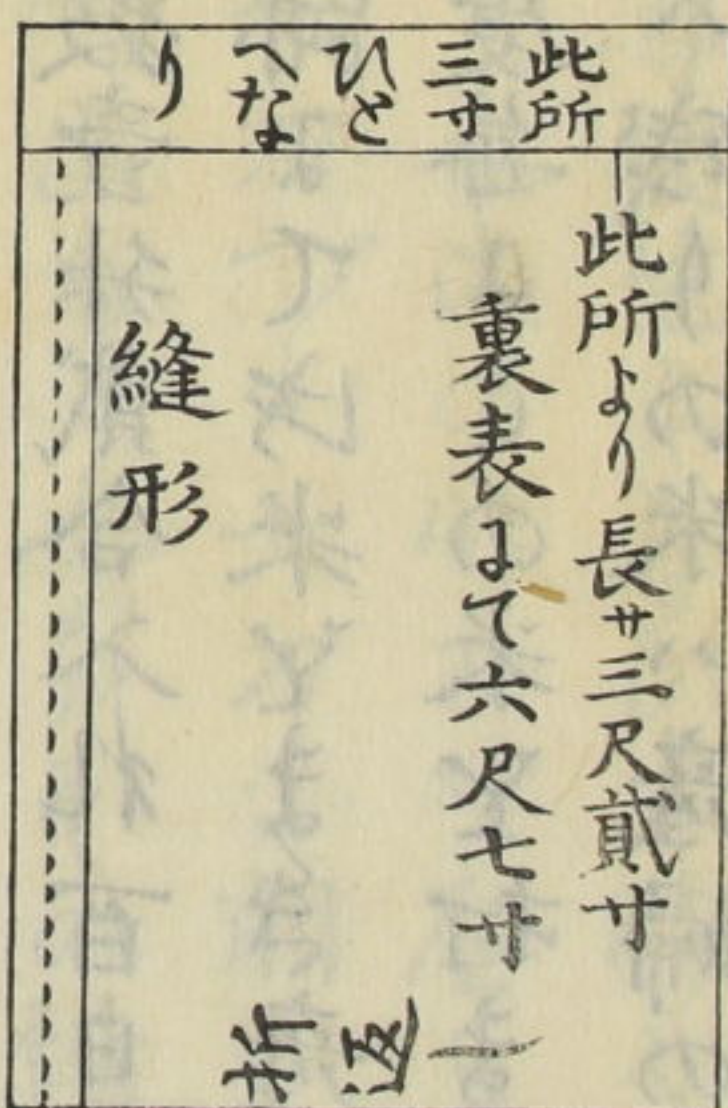
竹刀ノ圖

押桶壺對口径八寸高サ七寸五分中よかけごあり蓋押込とら  
 め表の方へ十二是ハ白米と月數壹升貳合入れ百日の間多  
 くとへ置き産湯とひりせたる跡よては米とまき産所とま  
 くと免る也嬰子宮参り其他出入ノ度毎よこの米と打まとの  
 也これより米とと日過たつバ残りの米ハ産婦の食とに  
 委さる事ハ産所ノ部ニ記に  
 煮な桶壺ツ口径六寸高サ三寸五分閉目七ツ蓋よとつてあり檜木  
 といふものなり





うぶ湯いりせハ白羽二重折返し長サ表方三尺二寸裏方三尺五寸横巾七寸片いりと縫もの也生子と湯よりあぶる時二巾と両方へひろき其内へ入れ湯氣とあぶるもの也縫形左記に如くなるに産し



産所之事

産所と作るよハ癸知日知に刻鉄とド急とて地あふしと  
な志丸木にて作り板張なる事本式也棟ハ南北へ通し四  
間ハ長サ九間或ハ十一間この内三間と産所としこの三間と

仕切りて上間へ御座直りに寄掛りと置と産所を疊  
の縁ハ白綾幸菱多る産し其餘に間ハ住居勝手よと作る産  
志産所に屏風ハ白張に鶴龜松竹ふどと胡粉にてあがとべ  
古ハ産所に間の床下三尺六寸四方深と穴と掘り其穴に内  
へ簀子以て敷き其上へ菰とし子安繩と上より下げこの所  
にて産となせしもの也  
産所と別と作らざる時ハ産後内よき所と見つより産屋  
よ定む産し

癸巳日早朝に産屋に入口へ産屋と書て札と張る産し産  
婦産屋へ入るるハ九ヶ月目の朔日の朝一番鳥くらたひし



時産屋へ入り初となり手掛引渡して式三献の祝と志産  
神の棚へも供物となり其後ハ常の居間へ帰り臨産し時産  
屋へ入る産し

産所ハ東の方と産神棚と定む産神棚ハ上古ハ外と割り編  
て釣棚と作る上の棚ハ産神と祭り下の棚ハと押桶胞衣  
桶あごと置きしものなり

産所ハ肉と毎日笹と桑と塩水と付糸晝三度夜三度清むべ  
志七夜迄ハ産神降臨あつて母子と守護し多まふしへあり  
産所移徒床飾

若松氣束香立

折餅上ニ鬘斗昆布

結燈臺

瓶子 雌雄三方

八足臺 香爐

同 折餅上ニ鬘斗昆布 立華

産所移徒式三献し次ハ最初口祝次ハ初献引渡。二献黑豆  
粥。三献鬘り物と参り引替は黑豆粥。雜煮夫より吸物。取肴  
ごと出し

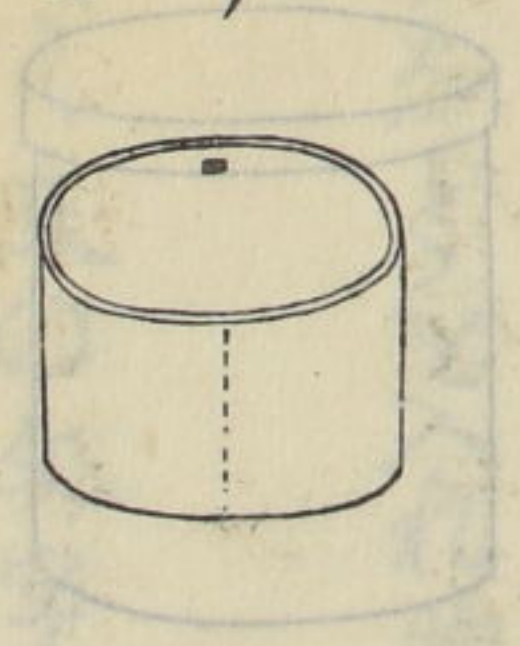
胞衣桶 寸法ハ結肌帯の所ニ記す

上ニ鬘斗昆布と包み水引と

り糸添へる産し鬘斗包ハ才二巻ニ記す折形十

七番と羽也

此桶ハ内へ大土器二枚。絹一尺二。麻苧。素ハ弓  
蓬ハ矢蓬ハ莖ハ羽ハと入れ置き胞衣納る時取出し右の土  
蓬ハ矢蓬ハ莖ハ羽ハと入れ置き胞衣納る時取出し右の土



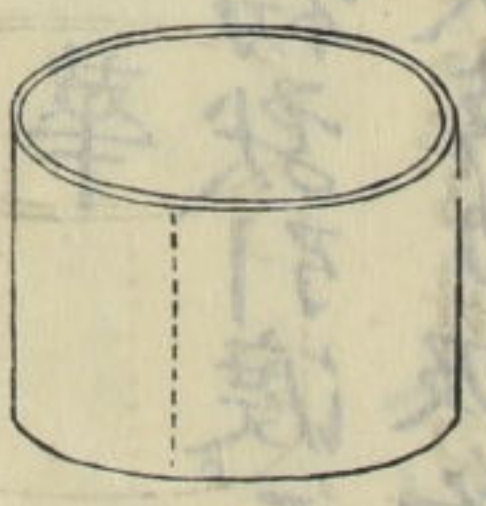
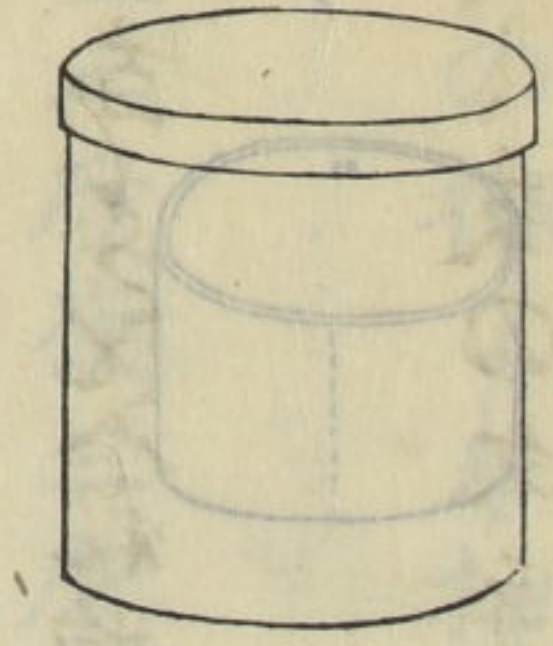


器二枚合せ其中へ胞衣と入れ杉原ウ半紙よて下包とな志  
其上と奉書よて包ミ麻苧よて結び其上と右と絹よて包ミ  
素と弓蓬と矢と添へ胞衣桶へ入れよと蓋として三桶へ入  
れ吉方玉方女地と煮らび納む屋し唱言あま畧ん

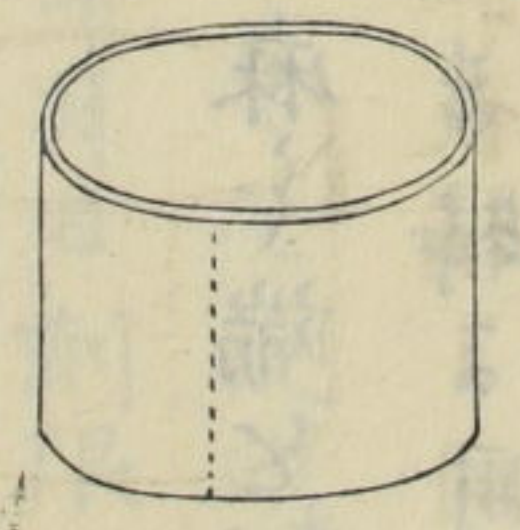
胞衣桶と入れ外桶寸法ハ  
恰好よすべし胡粉よて松竹  
鶴龜あどと煮がせてもと志

押桶壹對

この桶は白米と入れも也香き  
手ハ結肌帯し所よ記す  
上は熨斗昆布と包ミ添へる事ハ胞衣桶と同じ



この桶ハ明桶なり俗に子生れ  
かぬる時此桶に底とぬけハ忽ち  
けると云  
此押桶へ入れるとのハ臍緒とつと時用をたる竹刀土器と類  
及び口祝に用ゐる熨斗昆布の残りあどと入れ胞衣桶と  
一所に地中へ納むるものなり  
二挺に小刀は十二支の字と書き生れ時支の文字と所よ  
て臍緒とつとといふ事もあるなり  
産所は連臺ウ衣桁ウと二置き臺子飾りともなしまふ板其  
他庖厨に道具あども備へ置き産膳と調ふる時これと用也  
右に外薬品とも用意し置と屋し





臍緒箱并用意品之事

此箱之内へを臍緒とつど時用する品及び臍緒と納むる時入用し品々あざと入を置ともものなり箱の形も寸法あざと定まらば

土器 三枚 面より平なるあ目の石 一ツ

右を臍緒とつど臺也上より委と記す

竹刀 この事も上より委と記し置きあり

麻 あきよて臍緒と二所結び其中央と竹刀よ

て切る

鉄 これよて臍緒と結び多る麻の端と切るなり

小刀 竹刀よて臍緒のつぎぐたき時は用する也

のなり

引合二重 横より折又豎より三ッ折よして七夜の祝の時

生子よ付多る名と其生年月日刻限とと記

志臍緒と一所より納置と産し其認様は左記と通

何某何男	名
何年何月何日何刻生	

杉原 これハ臍緒産髪より上包より用する也

水引 あきよ右の上包よかき水引なり

右より品ととりそろへ鬘斗昆布と添へ箱より入れ置と産し



誕生之事

誕生床飾

五度土器下輪

乾香束盛三方

燈臺

雄

瓶子三度土器下輪

岩組

鶴

雌

瓶子

洗米大三方

鬘斗昆布

陰陽餅三方 卓香爐

同

菓子束盛三方

燈臺

墓目間床飾

七度土器下輪香立氣束

乾香杉盛三方

燈臺

大高坏折鋪

鏡餅一重

瓶子雄三方

卓香爐

七度土器下輪香立氣束

精進杉盛三方

瓶子雌三方

立華

天兒之供物

天兒之圖ハオ一巻ニ付て見ユ

口祝

鬘斗耳土器

箸

引渡

盃組付

陰陽餅飾様ハ上ノ同

高盛膳部



鈿子提

陰陽餅を生兒男子なきバ二重女子なれど三重多る座し餅  
の數ニハ陰數也男子ハ陽生ふるゆへ陰數と以てこれに配  
て女子ハ陰生ふるゆへ三ハ陽數と以て此色に配はこれと  
以て陰陽の餅といふ也他流よて男子の時ハ三重女子の  
時ハ二重と用ひこれハ陰陽相補ふの理よそむき古實と失  
ひ多るものといふ座し口傳ふきどもこゝに記は

墓目と射る座を棟と東西へ造る座し長六間又巾九尺丸  
木の白木作りよして板張たる座し廊下も板鋪よし四方よ  
注連繩と引之事本式あり

墓目と間を南の方と西の方と矢落よすべし是よて産所と

抱也疊と立る所し床を九尺よ七尺多る座し其所へ的の山と  
疊と立る也疊ハ白縁二疊用ひべし的ハ檀紙と疊紙よ白地  
よ胡粉よて松竹鶴龜ふどと葱がきたる扇子と三ツ折の五折  
閑き添へ串よ挟き立る也矢落疊ハ床の内へ爰べし流義よと  
りて疊と用ひ米俵と用ひ墓目と間と新よ作らばして殿  
中よて勤る時ハ的の山よ五斗俵と左右中よ三所よ置き杭と一  
かづり俵へ立十二支の階子と右の杭よ寄せけけ白布と引  
き紐よして階子と杭へ結付け其前へ疊一帖寄せけけ  
置ともものなきども當今よあまりこの飾と用ひ當今用ひ  
る所よ墓目射場の飾ハ左よ示し多る畧圖よ如き飾と用ひ  
るあり







弓ハ混沌弓と月弓を混沌弓と月をざる時を白弓と藤  
 所三所とも紙をて巻き握と日本錦ヤマトニシキの綾をて巻き月弓べ  
 矢ハ鏑矢と鉾矢と飾る産  
 射手ハ双添より弓矢と法取り射座へ出弓も矢も菰の上へ  
 置き観念終りて出産の前は二度射て出産平安に報と待ち  
 居る也也志難産とあふバ鳴弦と脩すべし必は平産する也  
 其後七夜迫ハ朝六ツ正午暮六ツ時と一日は三度づ射るべし  
 射る度毎は射手瓶子に酒と戴と也  
 七夜に蠶目射終て後射手へ祝酒及び引出物と給るべし  
 的山を翌朝一番鳥の聲と聞き仕舞べし委さるハ古實と知  
 りたる弓道家は尋産し

産は向ふ方角を年々恵方り又玉女の方に向ひて  
 子安繩ハ布一丈二尺也愛染の法と脩して志を免ると云  
 りあれども當流は月を流  
 産湯を一番たふし煮なハ二番たふしにて洗なり  
 産湯といふ方角ハ年の恵方は向ふ産  
 生兒を湯引とて包み其上と絹をて巻き床枕は福さ  
 産し

胞衣納る吉方地祭る事

吉方といふは其場所と定め四角は竹と立幕と張り繩と引  
 き其中央と掘り其上は白木と大机と置き机上は左記の通  
 供物と置とべしに傳あり



大机之上

瓶 子 土器 三方 燈 臺

洗 米 三方 苞衣供物 大三方 香 爐

瓶 子 土器 三方 燈 臺

苞衣供物ハ餅。饅頭。干菓子。魚類。精進物あごとと藁苞ワラよ入  
れ真中マナカと細繩ホソナヒよて結ぶムス。一ヒトこ色ハ胞衣ハヤシよ備ふツクリもの  
よ何ナニふハ地祭チノマツリの供物也。心得違ココロハダガヒなハにハ屋ヤのハふハ比ヒ外ソト洗米  
神酒カミヰあハごとハも前マヘ祀マツリへ通ツグ供ツケへ地祭チノマツリり終ハて胞衣ハヤシと共トモよ三  
種ミナモトの守モリ鬘マシ斗ト。昆布コンブとトも納ウケむハ屋ヤ。右ミダヒ何ナニれハ口クチ傳ツグなハ色イロと  
も大畧オホシヨクと祀マツリす

産ウマの節ノヒの穢物ケガレモノ。疊フミあハごとハ埋ウマりハよハ地チと深コソクと掘コグりハて塩シホよかハま

どの下シタの灰ハイと添ソヘへハまハきハ清スガめて埋ウマむハ屋ヤ

三夜之事

子生れて三日目と三夜といふコナマ輕カサき祝イハヒあるハ屋ヤ

三夜ミヨハ父チチと守モリ刀タガと遣ツケすハべハ親類オヤジノト家来カライよりハ七夜シツヤの集ツク

らハはるハものハちハまハ

三夜床飾

雄 瓶 子 三方 燈 臺

三方鋪紙 鏡 餅 三重上ミヘの鬘斗マシト 香 爐

雌 瓶 子 三方 立 華

七夜之事

子生れて七日目と七夜といふコナマ七夜シツヤハハ門カド玄関ソノあハごとハ幕カキと



打て祝すべし古々五日目と五夜とて相應し祝せしをのな  
りしが當今を五夜と用るは  
七夜と朝餅とつき神は供へ其餘と親類及び家中に面々へ  
遣し又雜煮も毛羽也

七夜床飾

雄 瓶 子 三方

足附大縁高三方四隅五葉松掛糸  
若松若竹白梅氣束

餅 七ツ上ニ 鬘斗 昆布

燈 臺

香 爐

立 華

雌 瓶 子 三方

色直祝

口 祝 三方

三ツ 盃 足角 三方

初獻 引 渡 三方

二獻 烹 雜 三方

三獻 鬘之物 三方

鉞 子 提

引 替

雜 煮 吸 物 穀

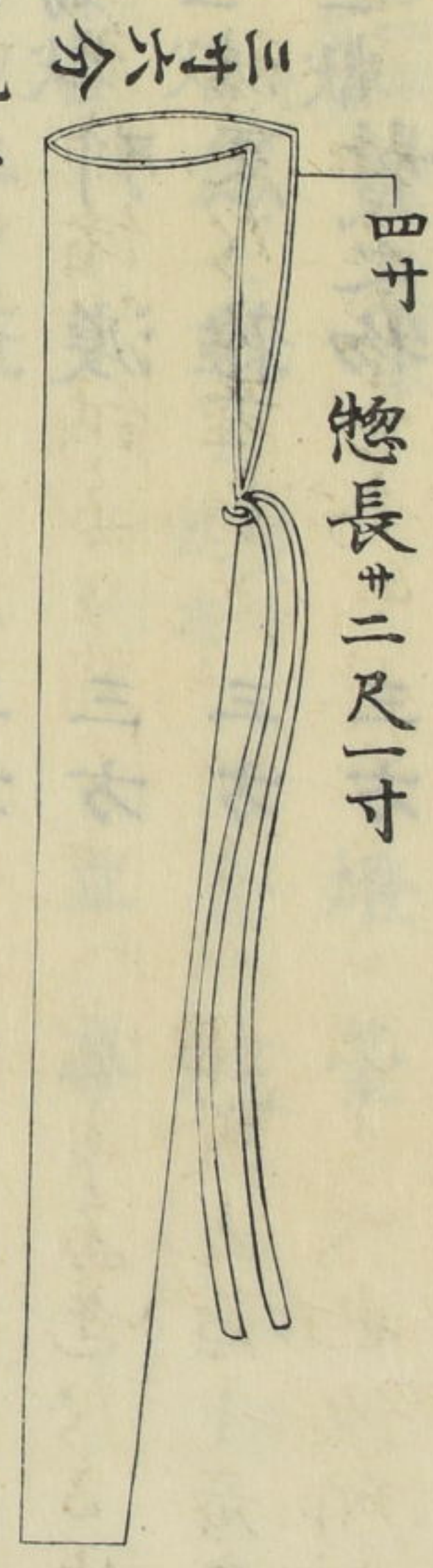
高盛膳部

七夜は一家うちを三ツ盃にて右に通式三献に祝あり  
て後種々料理とも出候也



七夜迄を生れ子之顔と他人は見せぬものなり  
進物ハ七夜之肉ヲ取ヤ里何ニ産シ生れ子之身近キ親類ニ  
里むつきは白き練にて由平絹にて由六尺と八尺と二ツと一  
包にして遣すもの也

親類并家来より生色子のうほぎ守刀あごとと集りて産し守  
刀之袋ハ織物紐ハ紅なり



守刀と打よハ結肌帯とめしるふ日より其國之七里の菜切  
刀と集め刀身よつとらせ守刀となは也この刀と差す人を

七難と云ふと古より申傳ふるなり  
嬰兒はめでたき童名とたへハ子代松丸。鶴君あごと付け  
上子記はとと徳免臍緒と納む箱の中へ當日も産たる生  
髪と嬰兒は着せ初免たる産衣と一所に入れ置と産衣  
を結肌帯と産着し如く合せ仕立むるひとへ也故所ハ  
産着し通はかりなる七夜に祝し時かよと里巾袖し下  
へさせ置き祝ひすたる後産衣とぬすもの也童名と付  
る人ハ父方之祖父ハ母方之祖父ある産し名付親嬰兒ハ孟  
とさけ也嬰兒男あらハ刀。照指と出すべ志  
産所は用を道具産婦し着用せ志衣類蒲團あごとハ悉皆嬰  
兒と取あ志ものは遣はべきもの也



天兒事

天兒を前廣より産月と考へ志多ある處に祈念所よて息災延命之法伐加持し箱に納め臺よのせまゝゆるる也かよとり巾袖又を産着其外は多らしき御衣ハ五歳或ハ七歳迄を嬰兒よめさし御衣と同換るものと先づ天兒よさせ夫より嬰兒よ免きすものなり

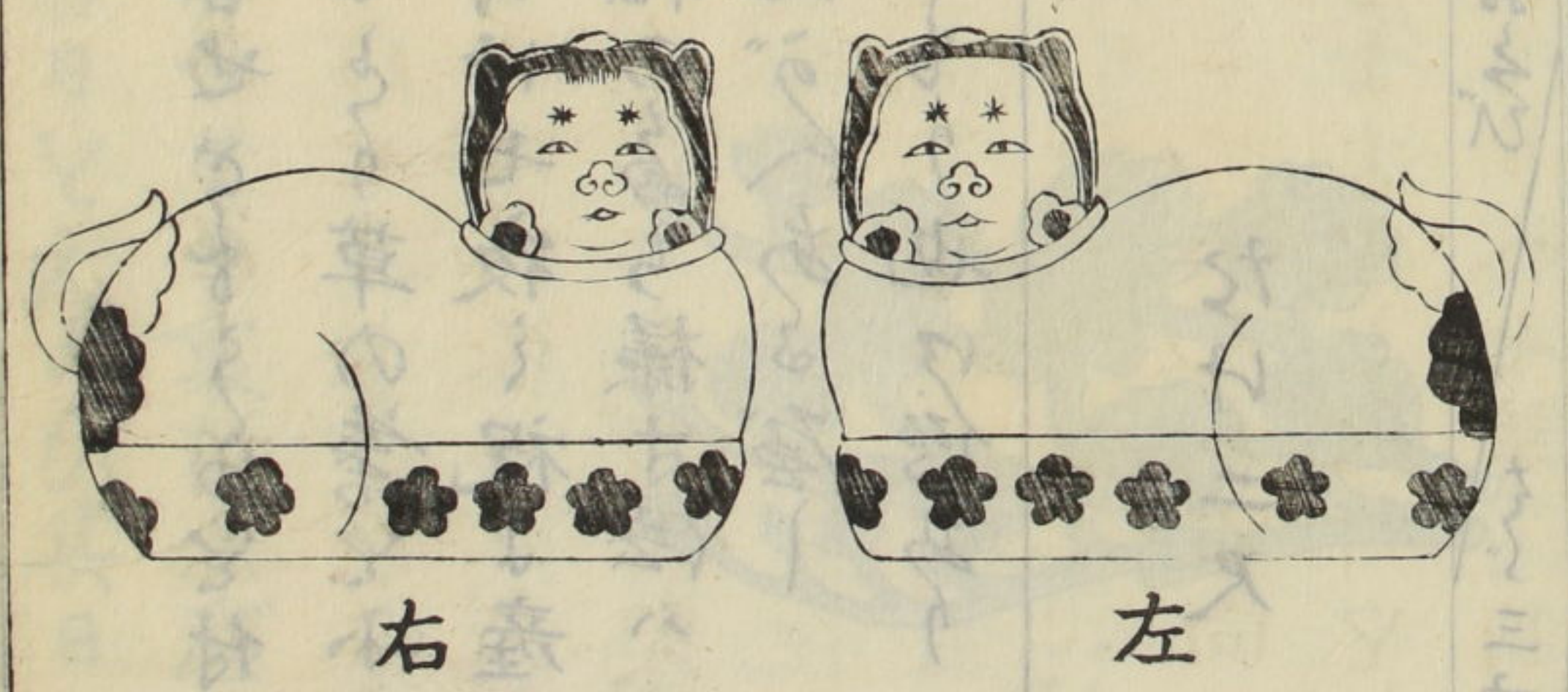
天兒仕立様ハ牙一巻よ委と祀し置きたる

犬ざりこころ

宿直く犬おんを左向の邊よ守と入る也めんを右向とれよ母子草若松経拂草と三種と紙一重よて包く水引とくけ鬘斗包と添へ入れ置と處し右に三種と肉へ七草と肉の色の

と利あり

如きもの浅草とせし方へ七夜と時祝酒と出し引出物とも出は置しこの犬ざり子を喰初迄床に置置し犬ざり子ハ小兒と守護はるものなり





かよとり小袖之事

かよとり小袖を産着く如く多ち合せともうらと付け錦入  
又仕立也地色ハうけふだよかよとり草の葉と小紋又と  
ちらしは染紋所ハ鶴亀松竹と付け七夜に祝は産衣の上  
よきせるもの也左に記は出の小袖の多ち様寸法ハ練衣  
とむ此つもり也巾せむき時ハかんぐくある座し  
惣長八尺巾一尺二寸つもり也は併あり

袖巾七寸	長サ一尺
	袖同
いも長サ二尺	たけ二尺
ゑりも三寸	
おとび	
も三寸	

痺取草

世よんとよとつ免かよ  
とりとよ

積雪草

地銭草

連銭草ともいふ

俗よかきとよとよ云



紺屋の方へも引出物ある座し

産着之事

産着を袖り絹當今ハ白羽二重と羽内とも裏なる座し巾式  
ハ表裏とも白也産着と多つハ吉日とえらび其日と玉女

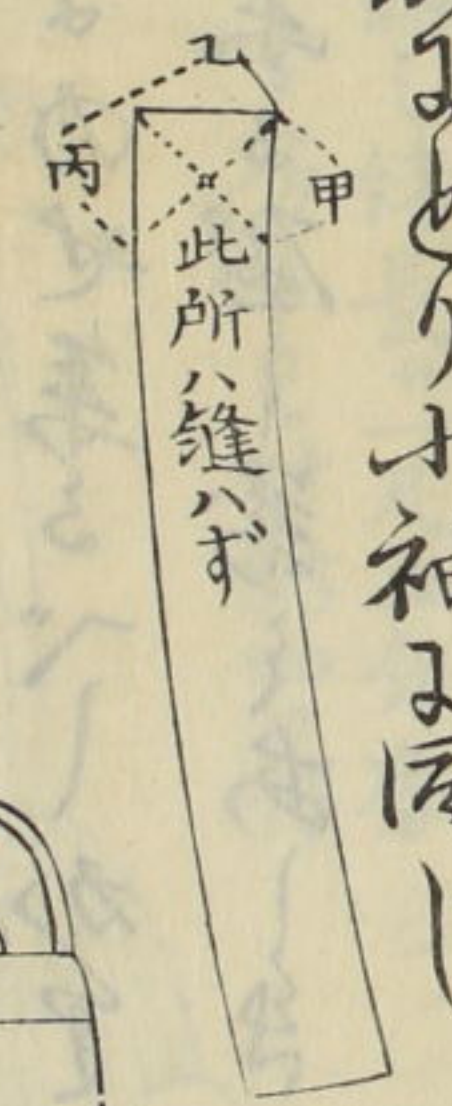


方は向く裁べし縫様を常く通綿と入れり也背縫となし  
 時を怠り付たり五分間と置いて縫べし糸を二筋也糸目八十  
 千十二ヶ月と表す四年と十三よす座し長廿五寸と肉を縫  
 留めとと五分残して男ハ左へ女ハ右へ衽さし縫べし尤も  
 男ぐり女ぐりと別あるなり紐し付様ハ三方と角かとの縫  
 付け紐し方ハ縫ぬもの也三方と縫たる生半と左記に如く  
 縫座し宮参り時嬰兒よさせり也七夜に祝よハ廣蓋よのせ  
 熨斗と當流し折形十七番よ包ミ水引とくけ産着く上よ置  
 きうざり置たり

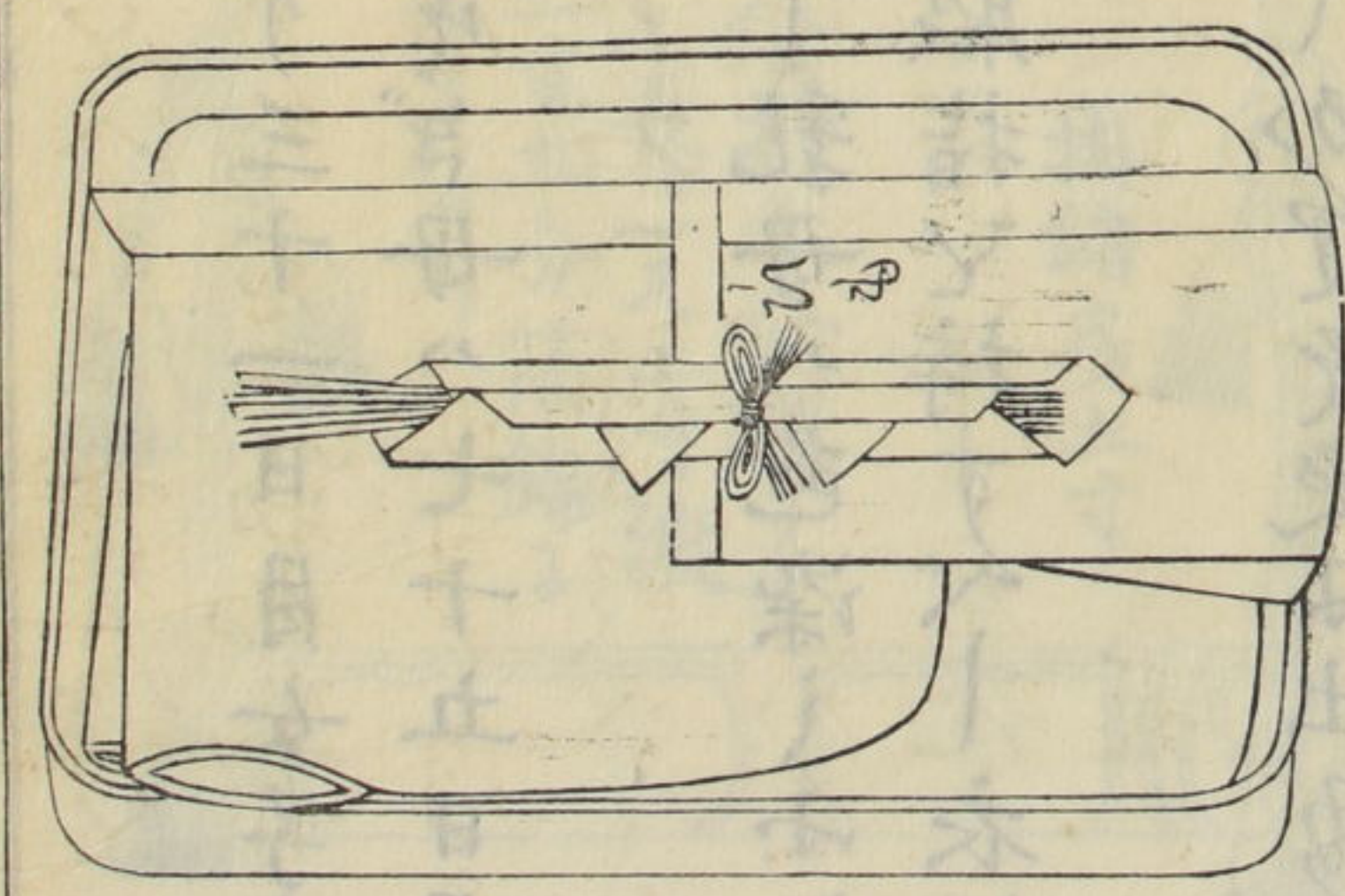
う梅ざ一きと肉一ツハ紋所あり一ツハ無紋たる座し古を胡粉  
 よて紋所と怠りさせたる也當今ハ色地と時を銀箔白地と時

金箔よて紋と付るなり  
 産着く寸法たも様ハかよとり小袖も同ド

廣蓋よ産着よのせ  
 熨斗包よ添へる



甲乙丙と三方角  
 かよ縫べし



圖



宮参りし事

宮参りハ男子赤色ハ生れぬる日より三十一日目女子赤色  
ハ三十二日目すべし父ハ三十日中母ハ七十五日過て  
宮参りすべし

嬰兒は乳母にだきて乗物に乗る座し乳母ハ色染し小袖に  
る座し乗物に左の方より右の方より服指し持すべし衣袴ハ  
いづれも烏帽子素襦たすべし

天兒を嬰兒に先へ輿よのせ乗るべしかまそえよ出るふ時  
も先へ天兒にだきて乗る座し乗るあしきとのと拂ふとい  
ふといふなり

筒守を嬰兒宮参りし時輿に先へ緒と片むすびよして掛る

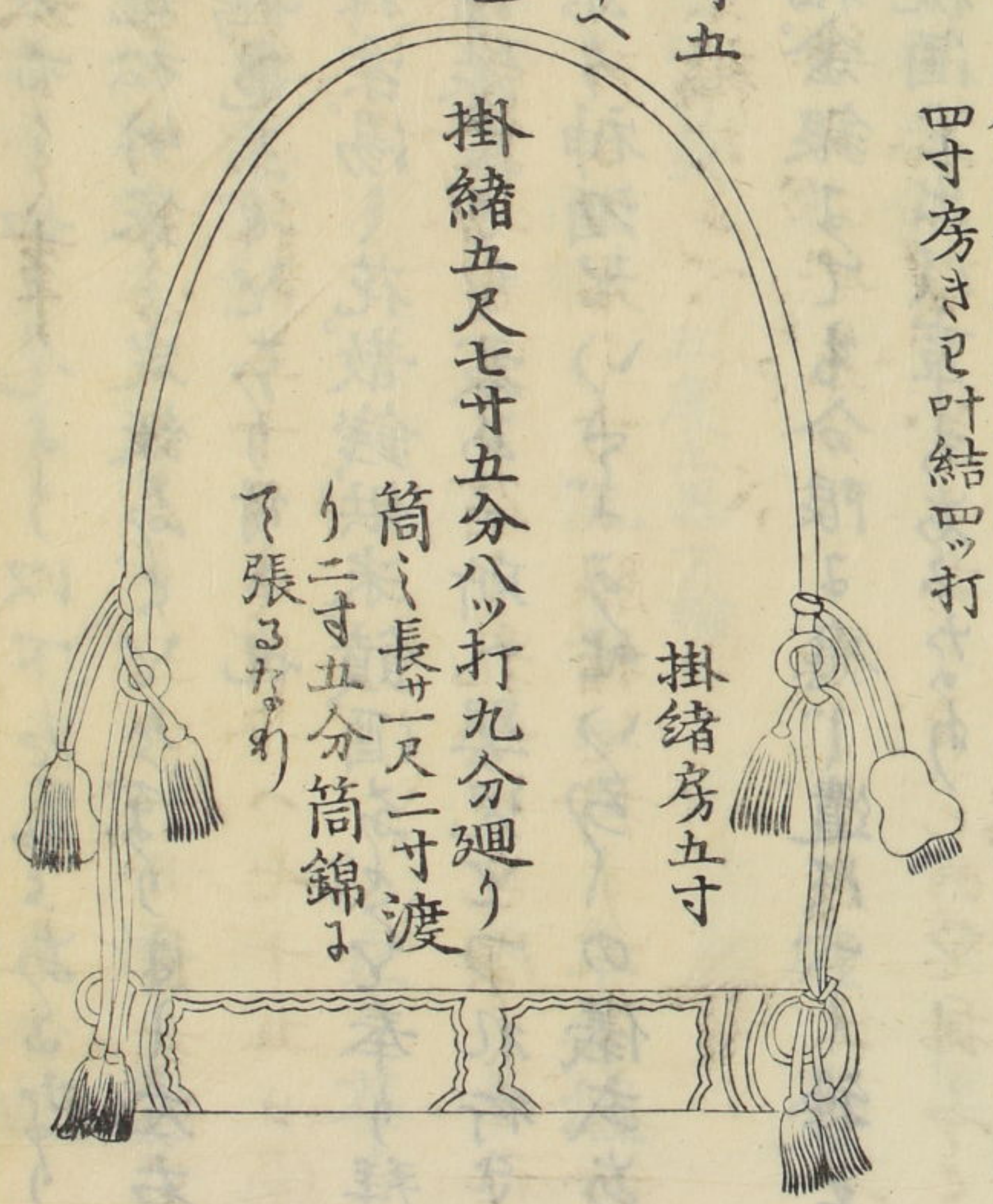
もの也其外他へ出るふ時も同ド扱ふなりべしは借あり

筒守の圖

銀の緒長サ一尺五分房  
四寸房さし叶結四ッ打

鈴の緒長サ五寸五  
分金糸とまどへ

たる房は付也  
但し四ッ打也





寸法ハ大方右ノ如シ是ヨリ以下ヲ取ルルアリ金  
物ヲ鶴龜松竹家ニ定致スルトクボリヨシ左右ニ  
鑲ルル舞鶴龜スルトアリ付ス也

宮集リル時神ヘ神樂湯ニ花散錢供米饋酒スルヲ奉リ拜殿  
ニ新シキ疊又ハ舊縁スルトク有ル所ヘ嬰兒トツレ行き  
ヒク居ル時神主集リ神酒トイフコトイフノ儀式有  
ナリ

神主ニ酒肴小袖金銀モても分限ニ應ジ遣ルベシ神主  
ニ吸物スルモ祝酒ト出ル事モ有ルナリ

宮集リル時伯父ノ方ヘとも應ジ伯父ノ方ニて就  
祝ありて引出物トモ出ルナリ伯父なき人ト其家ニ由緒

人ノ方ヘとも應ジ嬰兒歸リタルバ一家うちニ祝酒  
有ル應ジ供スルモ其外ヘモ分限ニ應ジ祝儀ト遣ル

宮參祝床飾

- 雄瓶 子 三方 燈臺

松竹實橘氣東龜甲高坏折敷 三度土器下輪

- 丸餅 三十三上ニ 熨斗 昆布 洗米 三方 卓香爐

雛鶴飛掛

- 雌瓶 子 三方 立萃

五十日祝床飾

- 熨斗 昆布 省形餅 二十五 三方 燈臺

- 雄瓶 子 三方 卓香爐



鬘斗 昆布 省形餅二十五三方

立香華

五十日と書て为初とよむ也出産之日より五十日目と云  
忌明祝床飾

五葉松鶴龜香立

六合餅三方

燈臺

花氣束香立

折乾肴

瓶子 雄三方

卓香爐

同折 同

六合餅三方

立華

七十五日は母親忌明祝となし  
百日色直祝床飾

鬘斗 昆布丸

餅五十龜甲臺三方

燈臺

瓶子 雄三方

卓香爐

鬘斗 昆布丸

餅五十龜甲臺三方

立華

本式は嬰兒も、日は色直となし

喰初事

これと魚味祝ともいふ

男女ともは生れたる日より百廿日は喰初ある座し養ひ親

よむ老人と頼むべし嬰兒男ならば男寄あべし女ならば女

に役多しべし

嬰兒といづま出さば養ひ親受取り男あつば左の膝女あつば

右の膝の上へ置座し膝の上へ置多し時祝箸をくちぎると

なま次は神酒にて引渡し飲となし土器の酒ハ尤も飲すま



祢となし居し次は神子供へ床はある齒固次は祝し膳と持  
ち来るべし齒固ハ三箸養ふま祢し次は祝し膳の箸ととり  
高盛の飯の上はある寶珠なりの生飯と膳は向右に手先は  
取り置き飯と三箸とくえ汁ともくむま祢となし居べし  
喰初祝床飾

雄瓶 子三方 燈臺 齒固 鉞子 口祝

鬘斗 丸餅百二十三方 鋪紙 卓香爐 喰初膳

雌瓶 子三方 立萃 提

齒固 引渡

岩組 鶴

卓香臺

五度土器下輪

鏡 餅上 勝栗三 耳土器 箸

松魚二 三方 昆布二

引渡

龜

小角

搗栗

窪土器

塩

小角

鬘斗

足角

斗

三ッ盃 土器

箸

耳土器

同

昆布

窪土器

梅



鈿子提

喰初祝之膳

大重土器下輪氣束香立 小角 間土器下輪

小梅乾 杉盛 金頭二 窪土器 汁鶴鯉鯛内

三度土器下輪氣束香立 鹽 耳土器 箸

鱈杉盛 同 梅 同

香之物 杉盛 同 青石二 同 飯高盛 上三宝珠より飯ヲ置

右に祝相濟して後更し引渡。雜煮より分限し應じ孟事ある  
盃し孟を養ひ親飲で嬰兒へさし引出物と出以嬰兒いさぐ  
とま杯して其孟と養ひ親へさし養親の色と飲て納むる也

其後養親と一家打寄り孟事ありて養親へ相應の物と遣す

盃し

天兒へも膳と備ふ盃し

髪置し事

男女ともし三歳し霜月十五日は良辰と撰び髪置し祝ある  
べし

髪置祝床飾

五度土器下輪氣束香立根笹

梅 乾 三方 燈 上臺

大高坏折鋪四隅實立花白髪掛糸 雄瓶 子三方

鏡 餅 鶴上 鬘斗 昆布 卓香爐



同

鮎魚三方

雌瓶 子三方

立 華

髪置親より廣蓋櫛元結。苧とさみ。水引。綿熨斗五本。藁七筋とのせて出け。座し。小兒女あふ。髪置親も女たる。座し。先口祝次三ツ。盃よて。初秋引渡二秋。烹雜三秋。鬘物よて。三秋式ある。座し。

髪置親。小兒と。玉女方へ。向く。男子ハ。左い。びんと。三と。さみ右。鬘と。三挾中。と。三と。さみ以上。九と。さみ挾む。べし。女児あふ。右い。びんと。りと。むも。也扱。綿との。べて。いたいと。里後へ。なが。とう。も其。下へ。熨斗五本。藁七筋。と。苧と。取そへ。根元と。元結よて。男結び。あら。結び。其次。と。水引二筋。よて。

女結あ。あら。結座。座し。

髪置濟た。れバ。直よ。神ま。ふで。あら。女児。と。法時。被初。となれ。也也。右相濟して。後髪置親と。一家。と。ちと。り盃。事ある。座し。天兒事ハ。畧は。口傳。

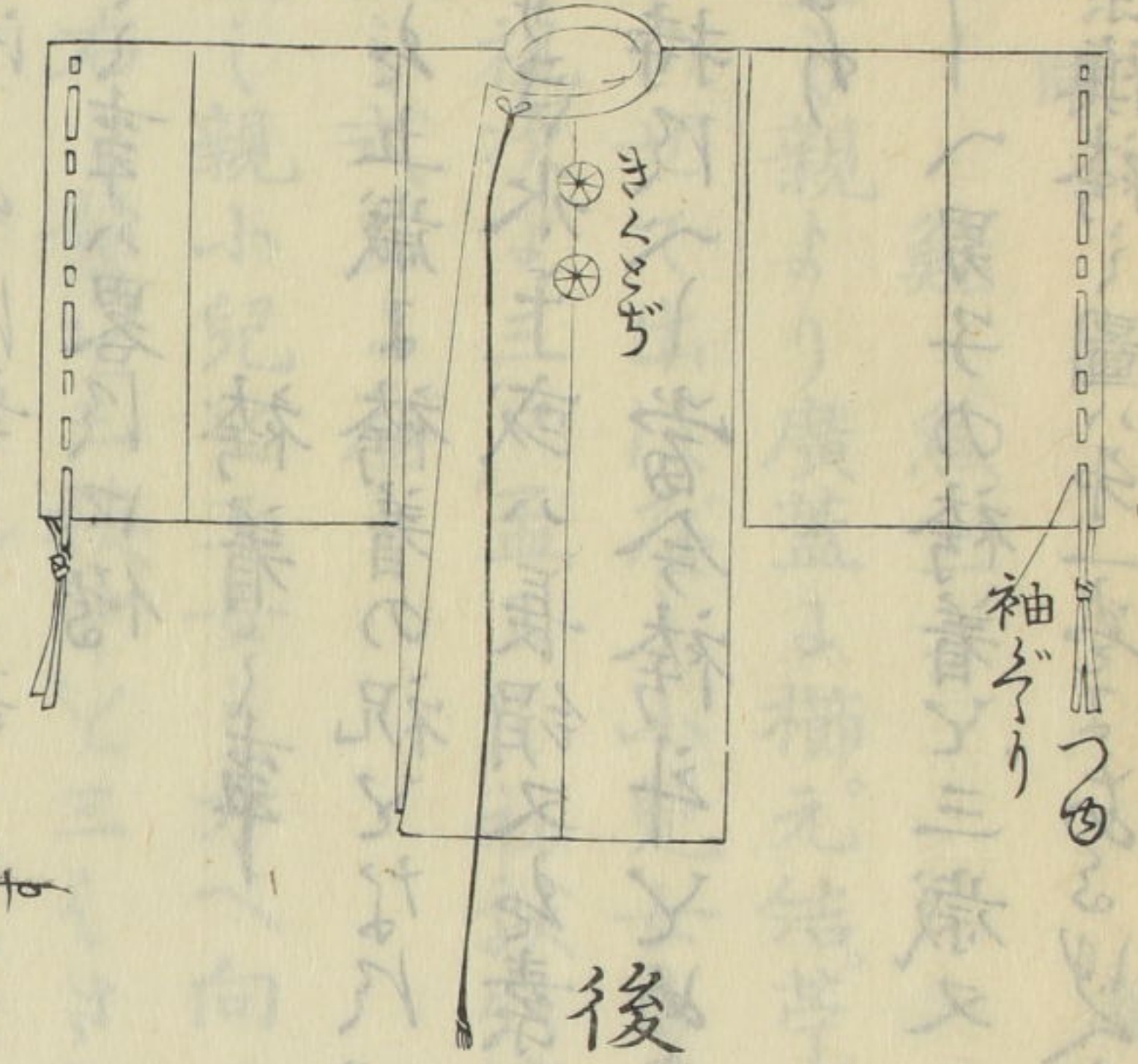
袴着事

男子五歳。は。袴着の。祝とな。りべし。袴着ハ。廣蓋よ。のせ。あら。小サ。き水。干或ハ。長絹。又素。襖袴。と。めさ。し刀。と。指扇。子と。持は。りべし。當今。袴斗。と。めさ。はる。上と。畧した。る色。のな。り。

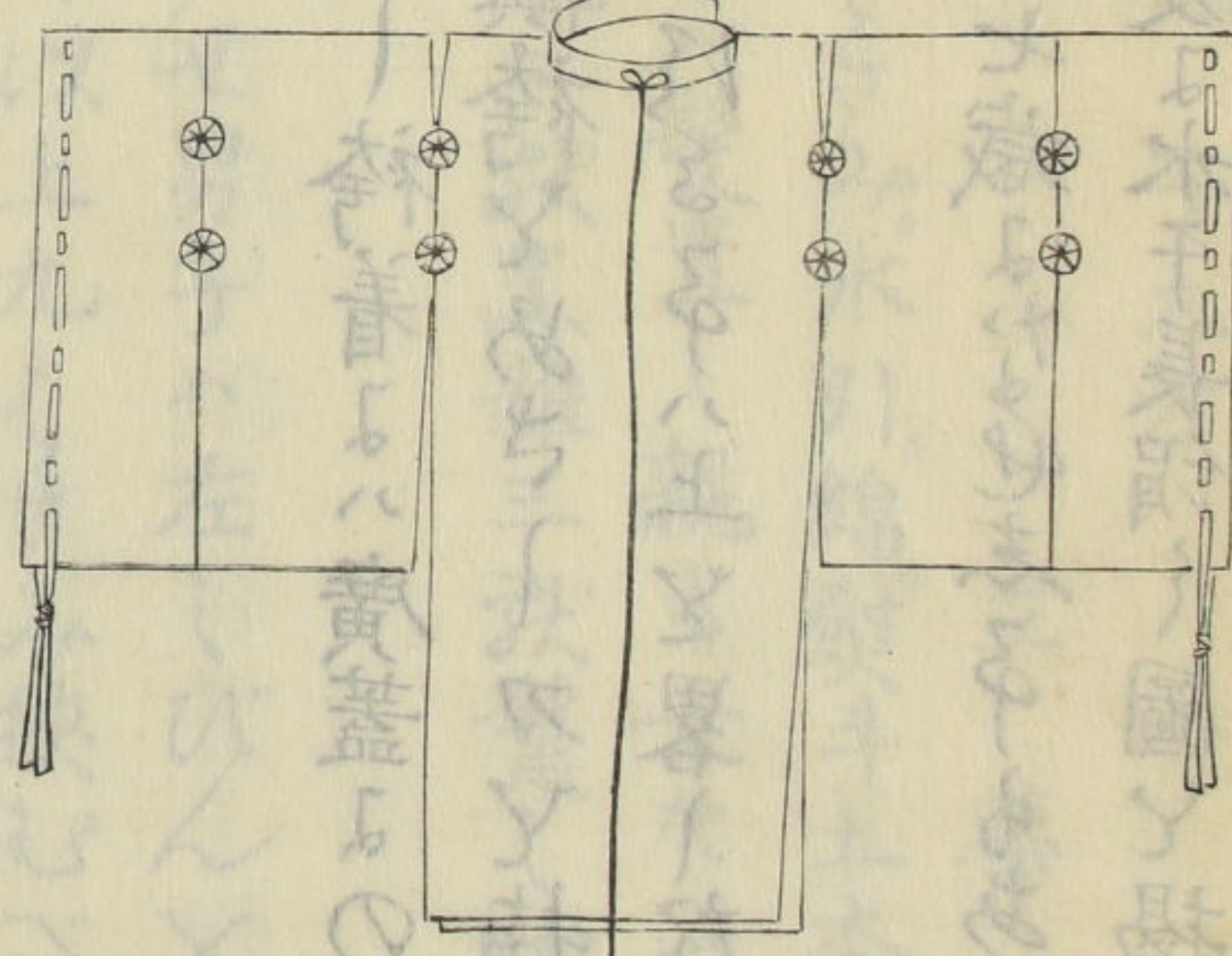
いふ。一へ。男子の。袴着と。三歳又ハ。七歳た。と。志す。事も。あら。也也。素襖袴。圖ハ。弟一。巻よ。あら。しく。爰水。干長。絹と。圖と。掲ぐ。



水干前

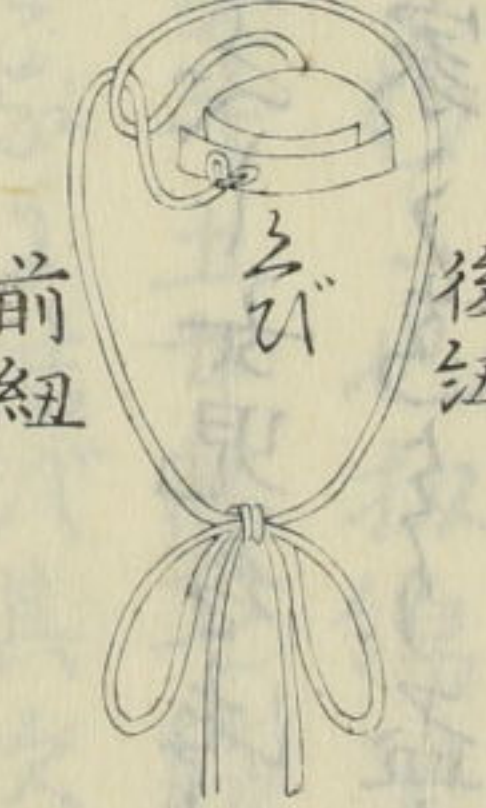


後

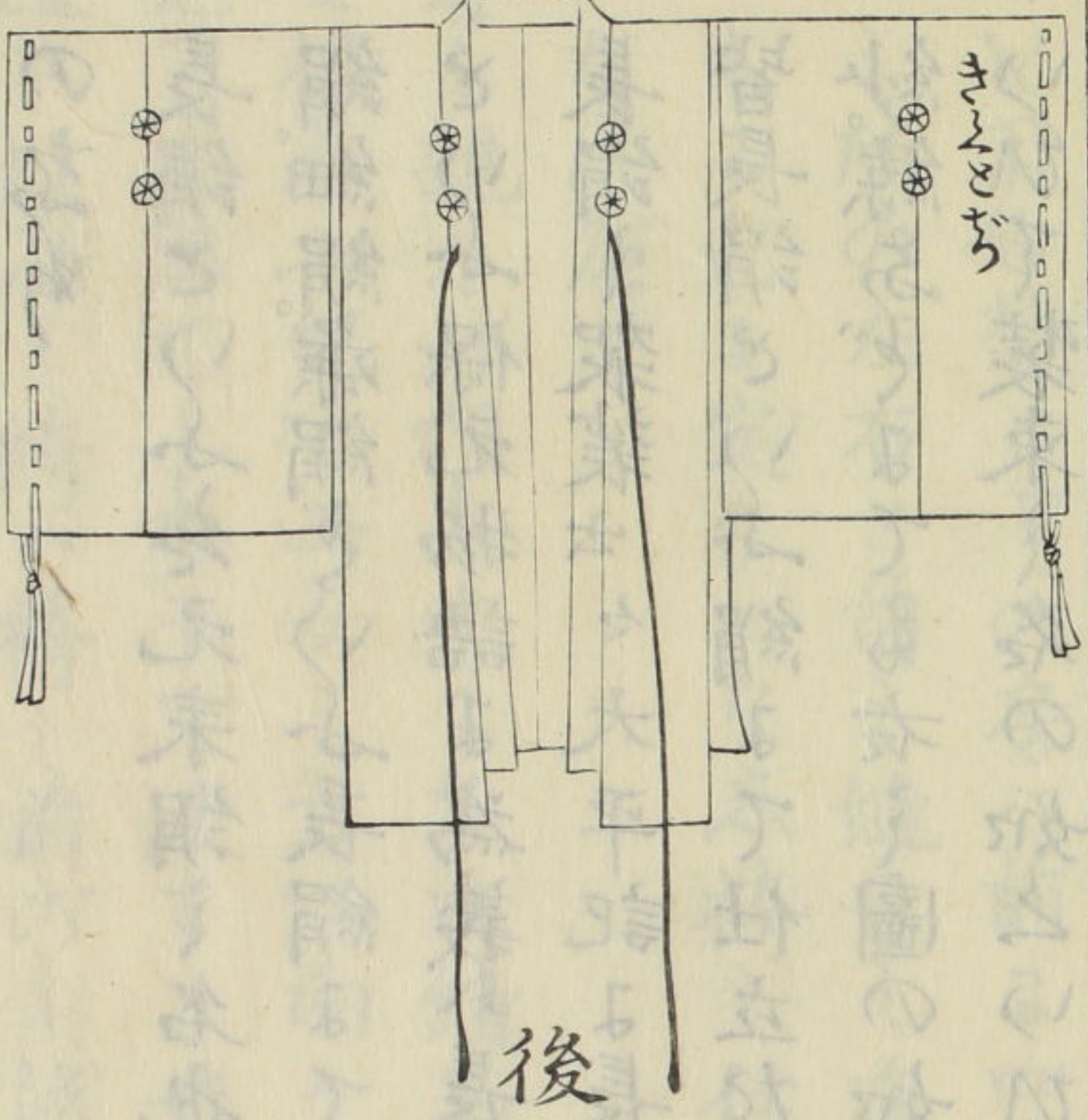


前紐

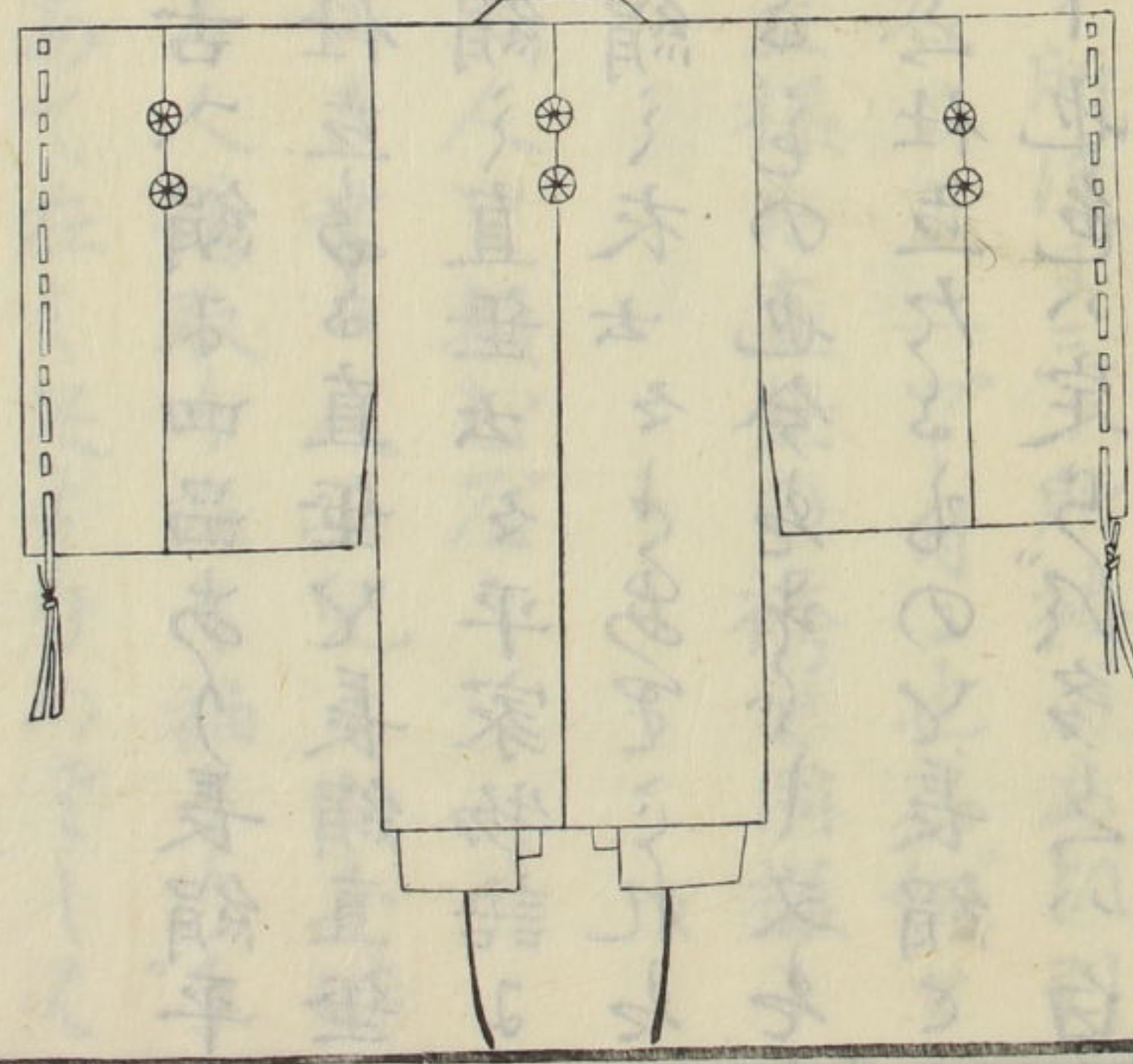
きんかんの紐



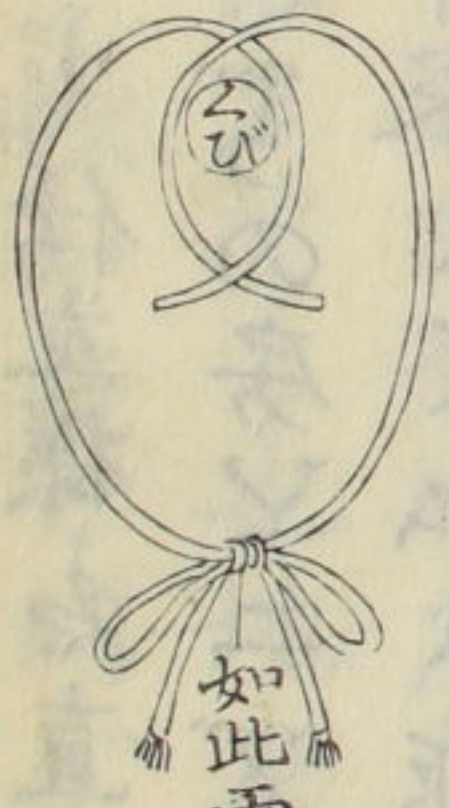
長絹前



後



此紐の結様は左右に紐を長絹のふと  
 ありよて左右取違ひ首の後廻し前取り  
 長絹の眼より外へ出し左右と取合せ結ぶ也



如此両より結ぶへ



水干は袴ハ地も色も各干と同じ仕立様を直垂は袴と同様にしてあひ引の所は菊とどちの房と二ツ左右は付る也蹴鞠の時水干を飛鳥井家にて私に作りたるをのちあり

長絹といふは元来絹の名也古へ絹は四品あり長絹平絹細絹兼絹といふ長絹にて仕立たる直垂と長絹直垂といふ保元物語は為義ハ長絹直垂云々平家物語は長絹は袈裟云々大平記は長絹は衣云々とありこれ皆長絹といふ絹にて仕立たるもの也今をきかふし又を紗練ふども右の圖の如く仕立たるものと長絹といひて装束の名の如くいひし也色は定らば多とハ白

と用也菊とどちの房ハ前は四ヶ所後は三ヶ所袴のあひ引の所の左右と前と縫目と左右と二ツ付る也房紐ともは色は定りハな志袴は仕立様を直垂の袴と同様なるは直垂

袴着て親を一行に中より由緒ある人と頼むるにさせ様を小兒と玉女の方へ向うせませる人小兒は向ふ時後見の人出でて水干と渡させ人傳取り左に袖とり手と通さし直垂は袴の前より浅めて左に足よりめきしと志むるもの也めさしあげて後刀とさしせ申直垂は女児は袴着ハ七歳は紅の長袴とめさす也地を精好なり袴は廣蓋はあえて出ればめきし換は右と同じと玉女は



方は向うせ右に足よりめきしとむるもの也これを女に  
役な平人はハなきなり也

袴着濟めを直に神もあてとなり一門打寄り口祝次は引渡  
りて式三献に盃事ありて袴着し人より袴着の親へ引  
出物と出は座し

袴着祝床飾

雄 瓶 子三方

燈 臺

花氣束

搗 栗

鏡 餅三重上ニ鬘斗前ニ神馬藻大三方卓香爐

海老

雌 瓶 子三方 立 華

男女とも五ツの年はおふろそぎとて下鴨湯を洗河に石  
と左右に手は持せ碁盤の上へ立せ吉方は向うせとて  
それいたる髪に先とをさしこれと紙を包み川へ流し  
これを髪に長とあるとて祝ふ義也といふと勤む  
る人の髪置に親打乱箱に櫛道具と入れ糸りて勤むる  
也此れも平人はハなきなり也

齒黒初に事 此れと好し水もド免ともいふ

女子十三歳に吉日良辰に撰び母親ありてしやハせよき  
人よか祢付親とたのし其刻限は娘衣服とあふた免か祢付  
親の夫婦と一同に夜後へ出其日の玉女に方は向うなり付  
親を聞神に方は向いて勝手より持出るいづれと道具と娘



前子置きか糸付親より子とつけ初む其後ハ衣添人より  
程子付て納む其時か糸付親より娘に親へ案内す親直  
に夜後へ出挨拶ありて後五人引渡して三献の式と行ふ最  
初にか糸付親三献ありて娘へさし座し是日中ごろ祝儀の  
進物取りうハせあるもの也この祝ハ床飾となす及バ

元服の事

男子十五歳に霜月十五日は良辰と撰び元服となる也元服  
とハ元ハ初也服ハ衣服也童子成長して初て冠とくぶり大  
人の装束にあふ多むると元服といふ也烏帽子親ハ一門の  
中より由緒ある人より頼む座し

元服祝床飾

花氣東鶴亀香立

五度土器下輪香立

六合餅

三方

燈臺

臺子

鳥盛 三方

瓶子 雄三方

卓香爐

同 五種盛 三方

同 六合餅

三方

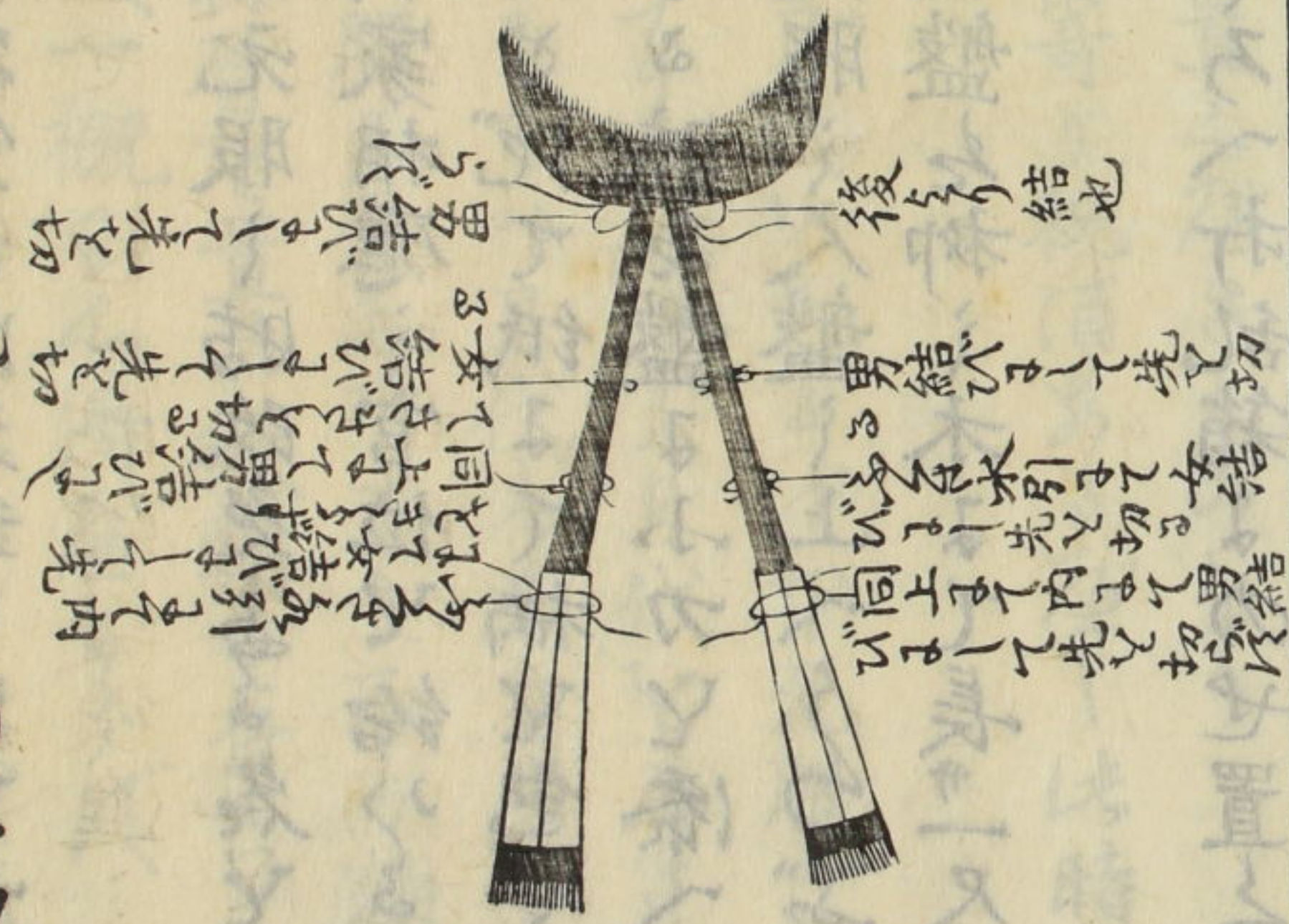
立華

祝儀に次身を最初口祝次に三ツ盃にて初献引渡二献雉盛  
三献鯉盛にて式三献ある座し引替はハ雜煮より種より料  
理とも出以也  
元服となる前より引渡して烏帽子親と子との盃事ある座し



其次身を烏帽子親飲くドめて子へきし引出物と出以子飲  
 て烏帽子親へさし親飲て納免夫より次く間へ行さ子と玉  
 女の方へ向うせ着座せしむる時髪役進み出でいざまづ  
 き左記の圖の如く髪と二ツまじけ髪を先と紙にて包む紙  
 杉原と豎に折又横に折り右と書き右に包み折り左の書  
 紙の中へ左と包み右と書き右に包み折り左の書紙添小刀  
 と臺のせとや志役の前は置とや志役取包きたる  
 紙のきとより左と一刀はや里刀はともや次は右と同様  
 よくや臺のせ中人へ見せばして収添は渡す其時髪  
 役進み寄りかんむり下地は髪と結ひ退く烏帽子親直に冠  
 ともちいづくふせる也収添は取たりたる髪は直に氏神又  
 ち其所に生土神へ納むる

元服済きたる後鉄漿を付る也男は齒黒初に祝はなり其  
 家吉例より祝ふ事ハ別段に事なり





これより何丸何若あどの童名とあつた免烏帽子親の一字と読る事もあり又將軍の御名乗の字と一字申受る事もあるなり

烏帽子名といふる元服の時改免ある名といふ

元服となしてより其家相應の官位と給ひるものなり

小刀を新しき小刀とて紙にて柄と包み烏帽子親より

出たもの也盤と用ゆる時を盤は小刀と添へ出た

盤ハ髪とやす時元服の人盤は上へうつぶとや親髪

とこの盤へあて切也盤を柳の木にて長一尺二寸五角高

七寸は作る

鬢具紙あごと取りそろへ打乱箱のせ置とべこれハ元

服人の方にて相調へ置とるものなり

元服相済て後一門打寄り祝酒ある

出物と出たもの也

當今前髪と扱てて月代と云ふは元服と云ふれハ近代

の事とて古ハハなす也將軍ハ月代とあされども鉄漿ハ

付けさせられれば公家にてハ月代とあされども鉄漿と

つけ多し公卿と元服は眉毛とすり取り額を左右はおび

んぶととなすを縁眉と置き鉄漿と付らるなり右は通

それ別ある事ゆへ一概は心得るなり

男子ハ天兒と元服の當日膳と供へ吉日は撰び祝儀を添へ

祈念所へ還すべし是ハ天兒久しと身と守護しあふ也



又いつまでもおのせぬふりもあるなり其時ハ奥方の天  
兒と一所にして床寝の間におりせらるるもの也

袖直し事 公家にてこれと床月見と云ふ

十六歳をの六月十六日は良辰と云ふびて袖とあはした  
る服と着て祝ふ也袖と直したる服とを振袖と切りてつぎ  
袖といたる服といふ夜に入りて男女とも十六歳のものた  
いふま<sup>ん</sup>頭也又これと月見饅頭ともいふとニツ重或は三ツ重  
よして萩の箸とせし中へ穴とつけ其穴より月と見ふ也  
これハ公武ともは用ふる袖とめく式なり

此祝ハ床飾とならば及ばず

六月十六日と嘉定といふ嵯峨天皇未だ御即位よりま

まじる時嘉定通寶十六枚と以て食物と調へ御膳は供  
志ある例と踐祚の後とも用たまひて此餅あごと  
奉るこの嘉定祝儀を公武ともは用ふるもの也亦  
定錢十六枚と以て食物と買ひ是と食せば其家は福あ  
るといふ故に今に至る迄其例ならふ也蓋し嘉通と  
勝との音相近し故に武家は於てこれと吉兆錢と  
比白五色菓子と土器を盛りこの菓子ハ京都一条通  
御糰白紙にて是と包み水引と以て是と結び群臣は幼  
ふ又孔方兄十六枚或は米一升六合宛と群臣は幼ふ群  
臣是と以て雜品諸物と調へあれと就け室町將軍の時  
六月納涼に遊り揚弓浅射てまゐたるものを嘉定錢十



六枚と出し食物と買て勝ちたるもの減てなりある事ありこの嘉定といふも宋の寧宗の年號にて十七年あり元年より十六年迄年毎に鑄多る志ありある錢と十六枚あつて今日一人ごとのもてなりとの代り定免多りといふ中祝たしうなるざれども古より言傳へ来るといふかとの如志

歳賀の事

歳賀を四十歳より祝ひとむむこれと五八の初賀といふ夫より十年目毎に祝ふもの也八十と大誕の賀といふ賀の祝を季節よつて福よきことよりあり春を花の賀夏を扇の賀秋を紅葉の賀冬は雪の賀と云なり淳和天皇天長二年十一

月子太上天皇五八の初賀と祝ひるふ事あり

歳賀床飾

五度土器下輪香立

白髪海老三方

燈臺

大三方鋪紙

鏡

餅上

子日松  
神馬藻  
鬘斗

雄瓶  
子三方  
雌瓶  
布

卓香爐

白髪豆三方

立華

歳賀の祝は最初口祝次に三ツ盃にて初献白髪豆二献烹雜三献鬘の物にて式三献ある座し引替は雜煮吸物取肴其外種々の料理と出に







初獻

引渡

盃土器

三方

耳土器  
箸

鈔子

提 桃花酒

二獻

小角香立

綠高香立花氣束

耳土器

引 雙

草之餅 龍舌餅

楊枝

三獻

鬣之物

耳土器

箸

五月五日

三方鋪紙包長鬣斗

耳土器

口 祝引 雙

初獻

同

箸

引 渡

盃土器

三方

箸

鈔子

提 菖蒲酒

二獻

小角香立

綠高香立花氣束

耳土器

引 雙

粽

同

箸

三獻

鬣之物

同

箸

三衣輪 七月七日



三方鋪紙包長鬪斗

耳土器

口 祝引鬪  
昆布

箸

初獻

同

引渡

箸

盃土器  
足角

三方

同

鈔子

提

菖花  
尾花

二獻

小角香立

五度土器下輪

同

引鬪

素麵梶葉

箸

三獻

同

鬪之物

箸

九月九日

栗子同三方鋪紙包長鬪斗

同

素麵同八尋之口 祝引鬪  
昆布

箸

初獻

同

引渡

箸

盃土器  
足角

三方

鈔子

提

紅葉

二獻

小角香立

緣高香立花氣束

同

引鬪

栗子飯

箸

三獻



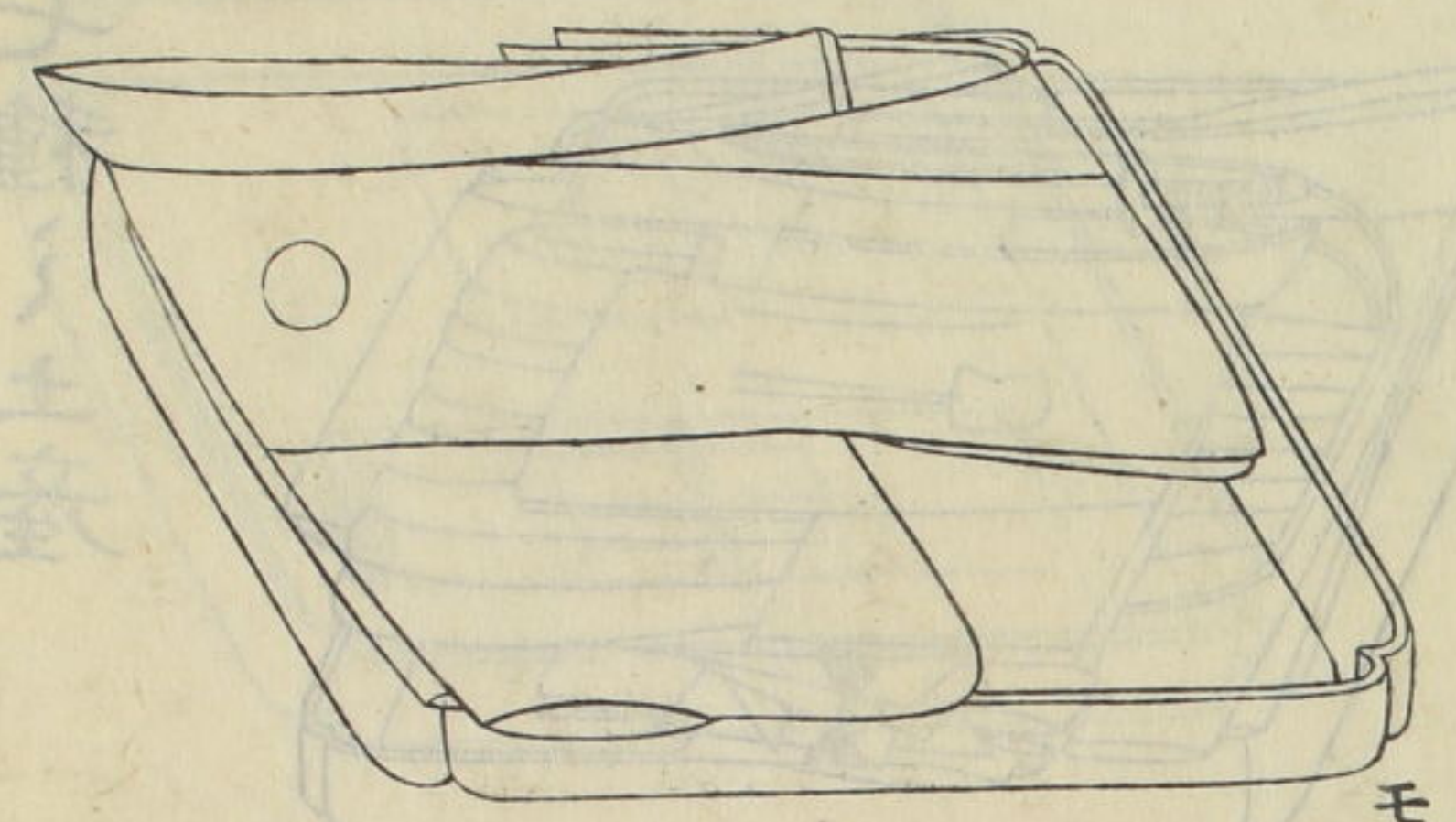
鬘之物

同 箸

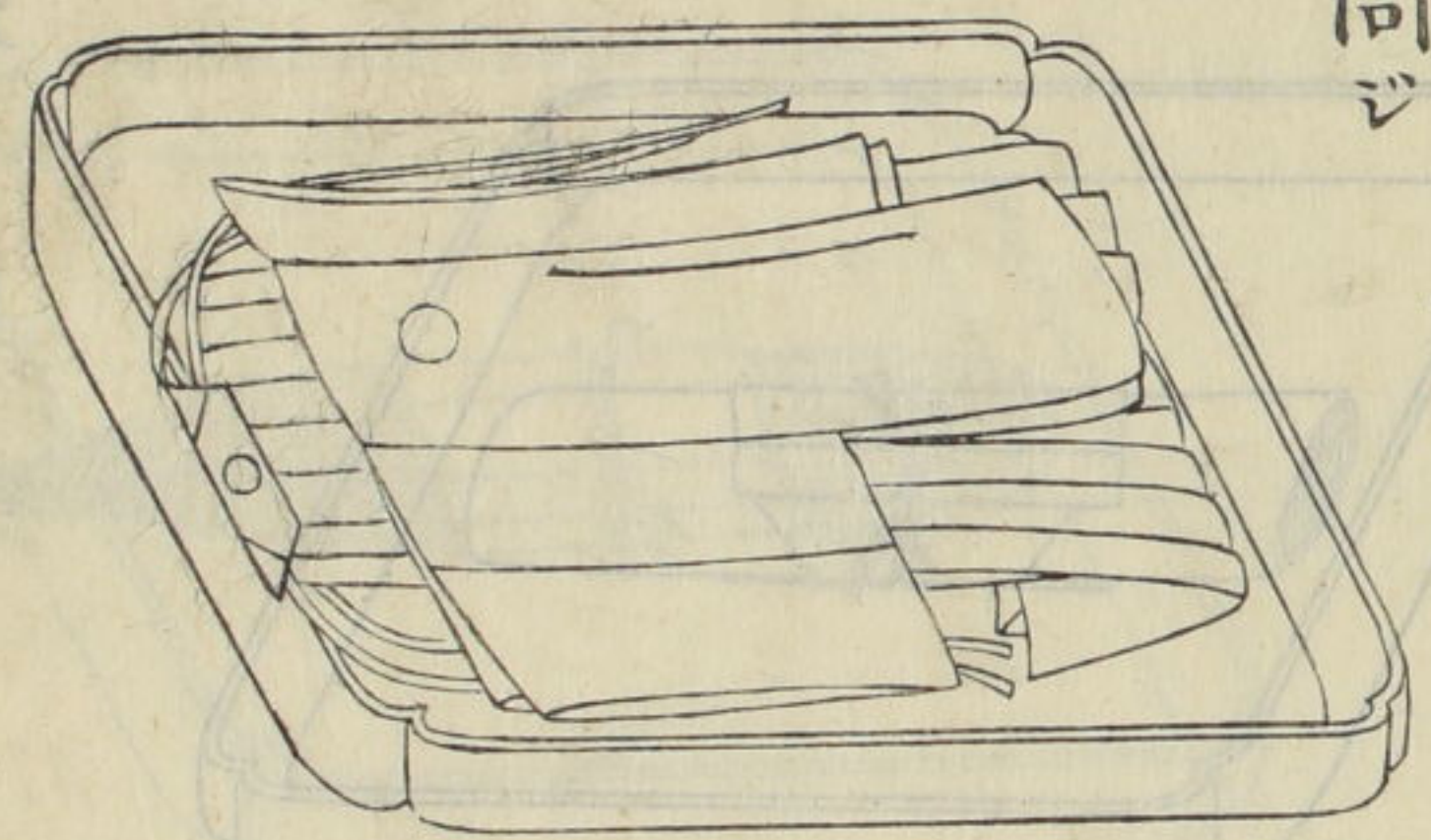
梅<sup>ノ</sup>然<sup>ハ</sup>香<sup>立</sup>の代<sup>リ</sup>は穗<sup>長</sup>もづり葉<sup>と</sup>羽<sup>も</sup>座<sup>し</sup>  
 引<sup>渡</sup>を別<sup>に</sup>替<sup>り</sup>たる事<sup>な</sup>し  
 草<sup>餅</sup>とハ蓬<sup>の</sup>餅<sup>と</sup>白<sup>餅</sup>と<sup>と</sup>小<sup>サ</sup>き菱<sup>は</sup>切<sup>合</sup>せ大<sup>菱</sup>の形<sup>の</sup>  
 如<sup>し</sup>て青<sup>白</sup>取<sup>り</sup>交<sup>せ</sup>高<sup>盛</sup>な<sup>ま</sup>其<sup>前</sup>へ龍<sup>舌</sup>餅<sup>と</sup>置<sup>と</sup>べ  
 去<sup>龍</sup>舌<sup>餅</sup>とハ引<sup>ち</sup>ぎ<sup>り</sup>の事<sup>な</sup>り  
 粽<sup>を</sup>五<sup>本</sup>下<sup>は</sup>三<sup>本</sup>上<sup>は</sup>二<sup>本</sup>置<sup>と</sup>座<sup>し</sup>五<sup>色</sup>の糸<sup>を</sup>て巻<sup>た</sup>る  
 粽<sup>と</sup>飾<sup>粽</sup>と<sup>い</sup>ふ  
 素<sup>麵</sup>ハ長<sup>と</sup>横<sup>は</sup>束<sup>盛</sup>す<sup>べ</sup>し  
 栗<sup>子</sup>飯<sup>と</sup>ハ赤<sup>飯</sup>は小<sup>サ</sup>き焼<sup>栗</sup>と<sup>ま</sup>ぜ<sup>多</sup>る飯<sup>也</sup>高<sup>盛</sup>な<sup>ら</sup>ば  
 座<sup>し</sup>

小袖

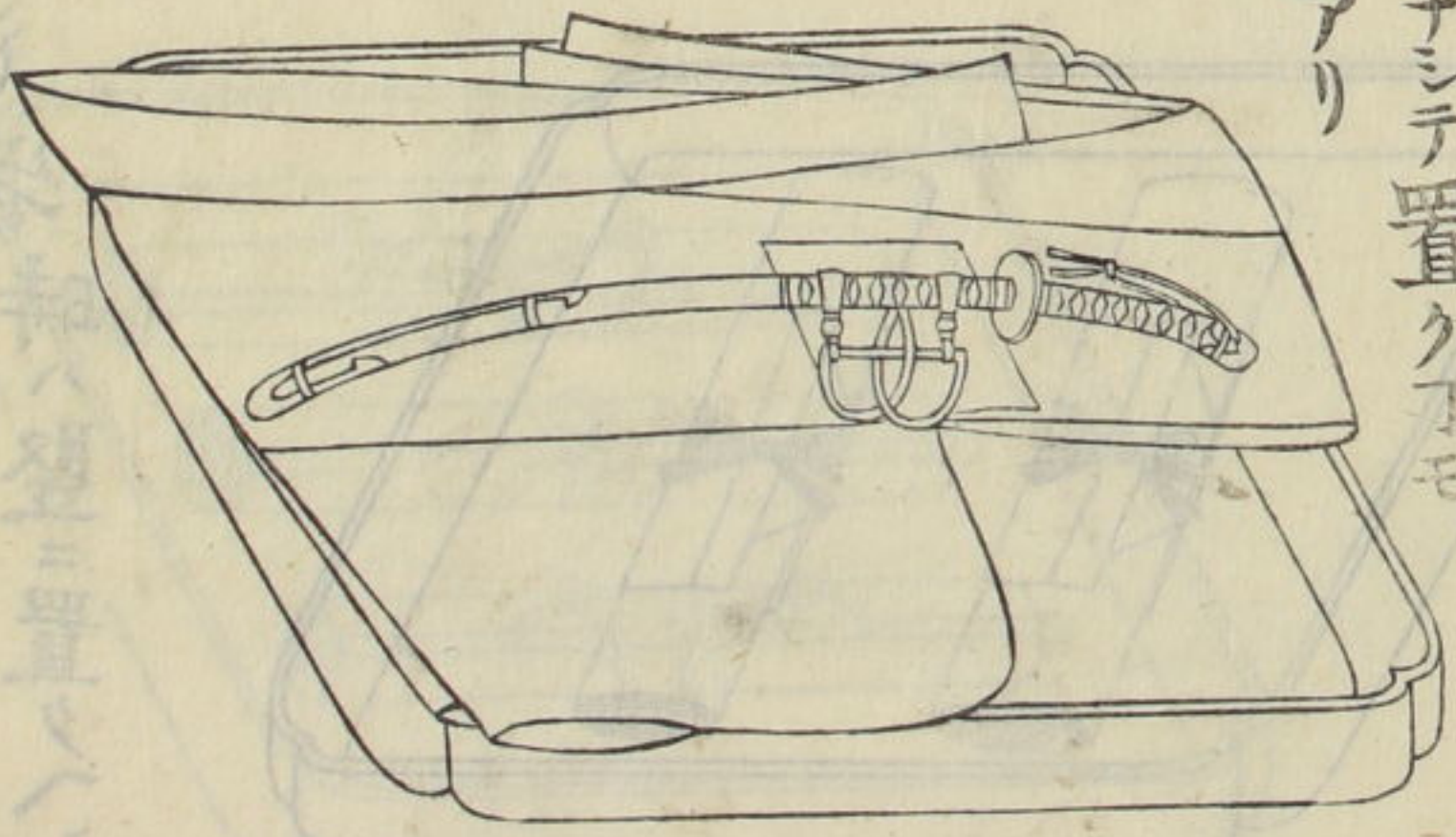
積物<sup>の</sup>大畧



素<sup>襖</sup>袴<sup>狩</sup>衣<sup>水</sup>干<sup>ニ</sup>テ  
 長<sup>絹</sup>直<sup>垂</sup>  
 モ同<sup>ジ</sup>

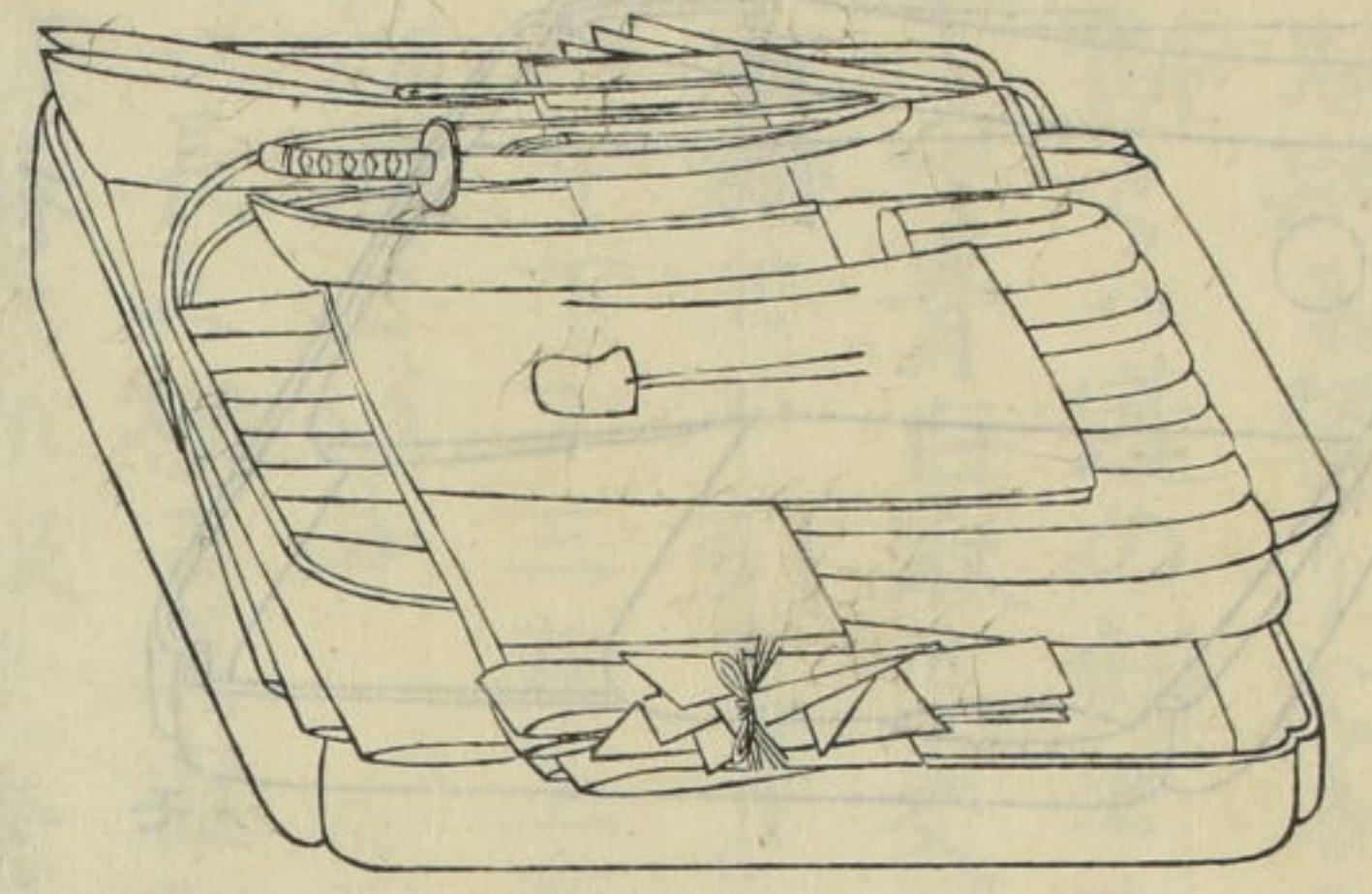


太<sup>刀</sup>柄<sup>ヲ</sup>小<sup>袖</sup>有<sup>方</sup>エ  
 ナ<sup>シ</sup>テ置<sup>ク</sup>モ  
 ア<sup>リ</sup>

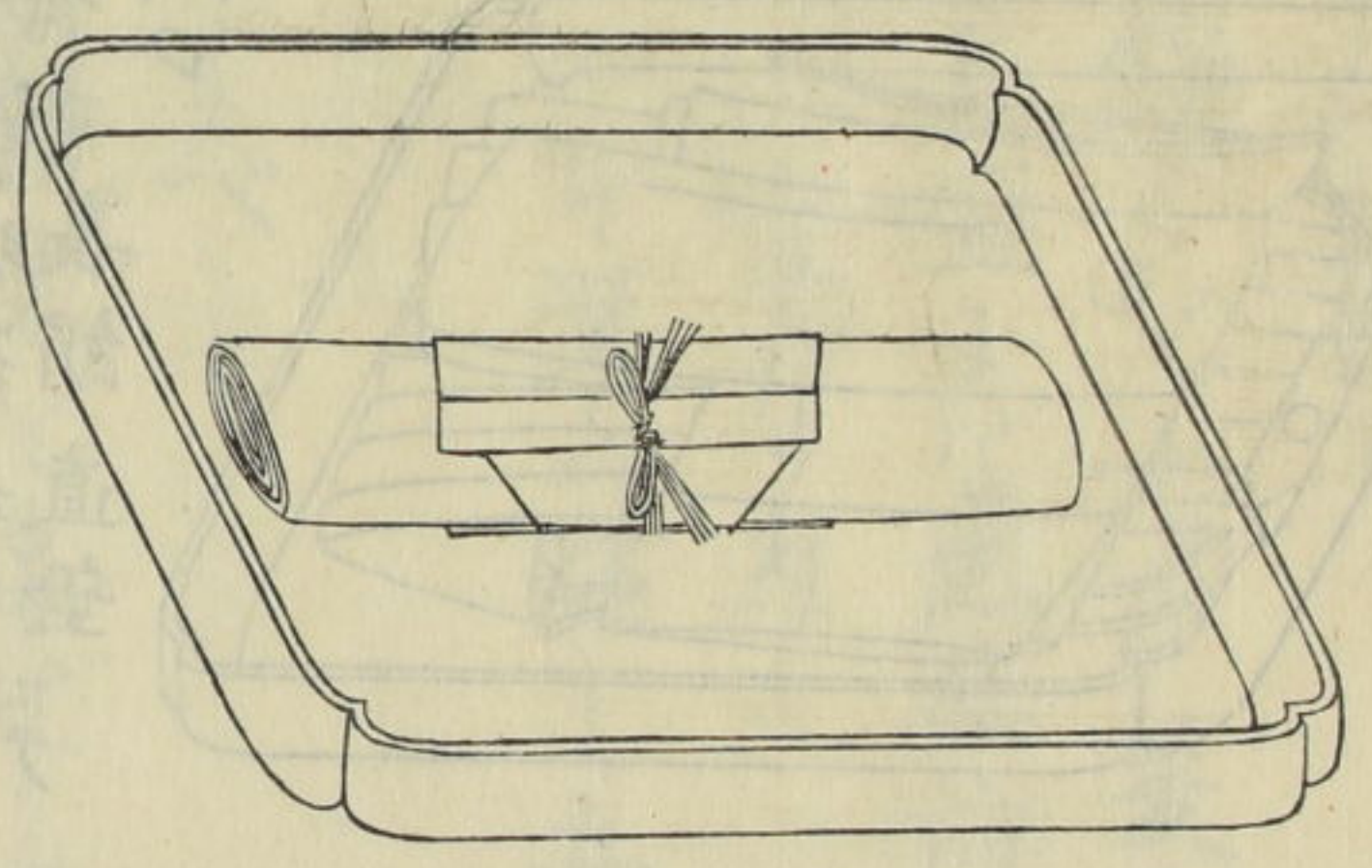




七種之土産

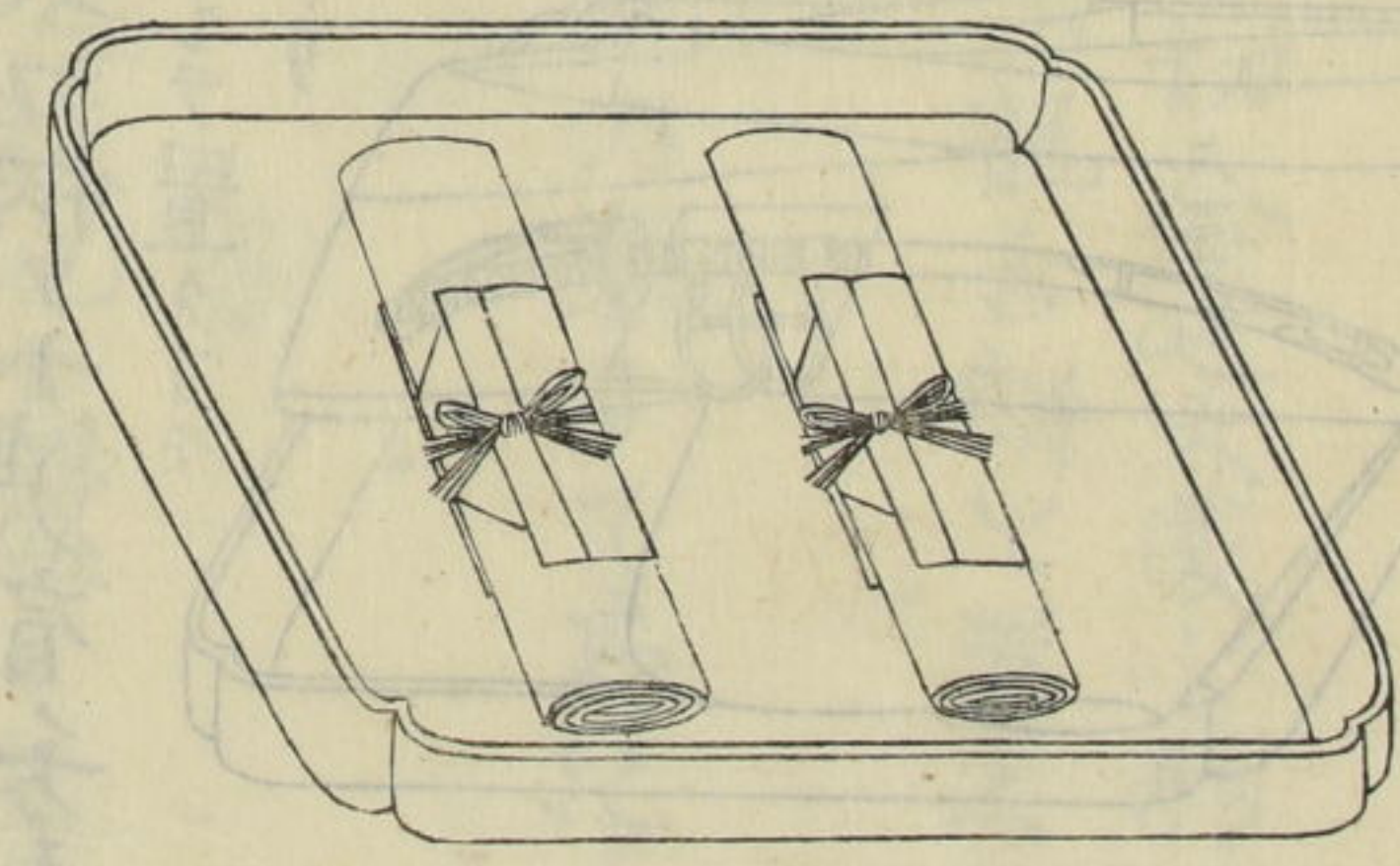


板之物

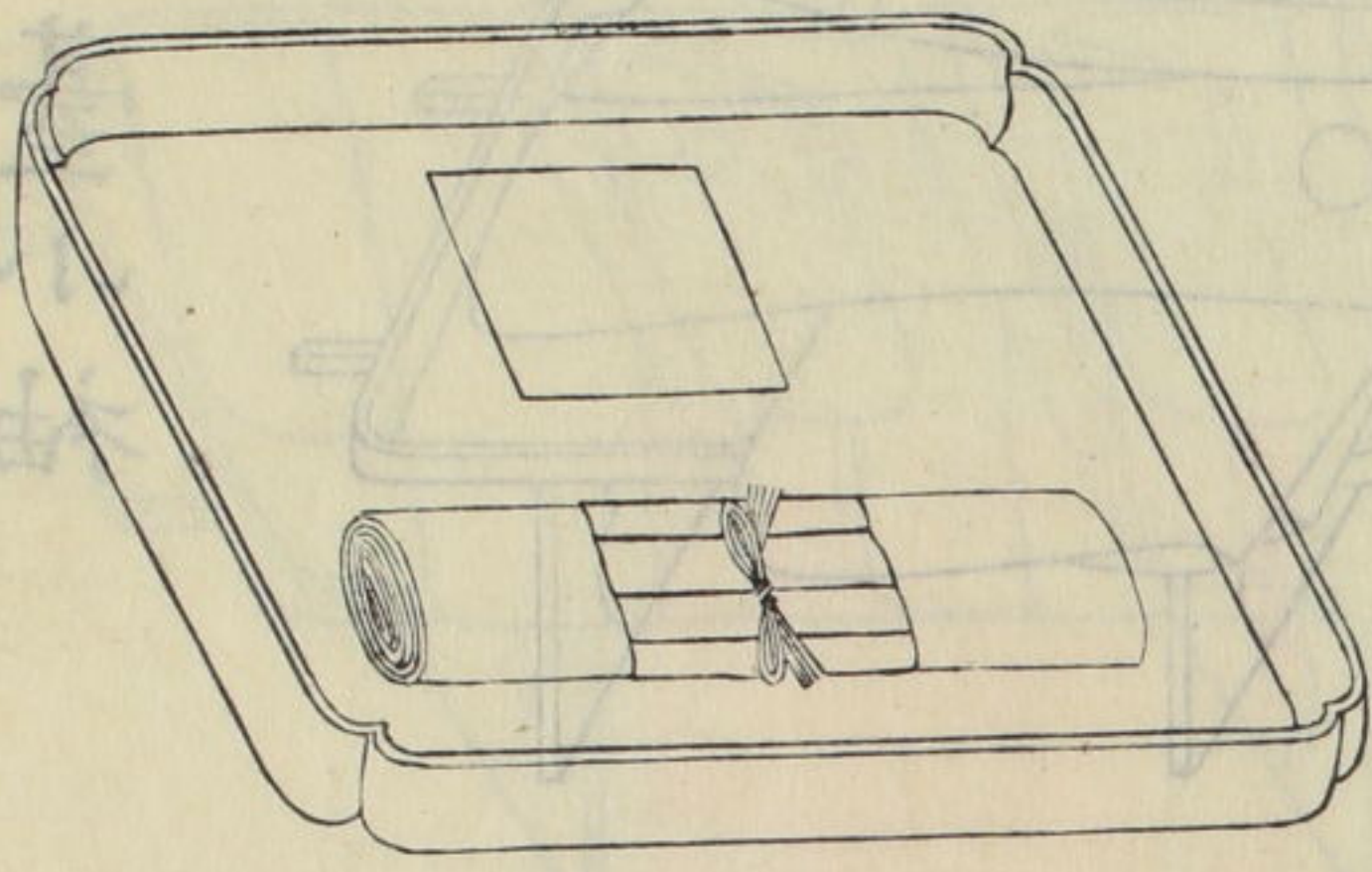


板之物

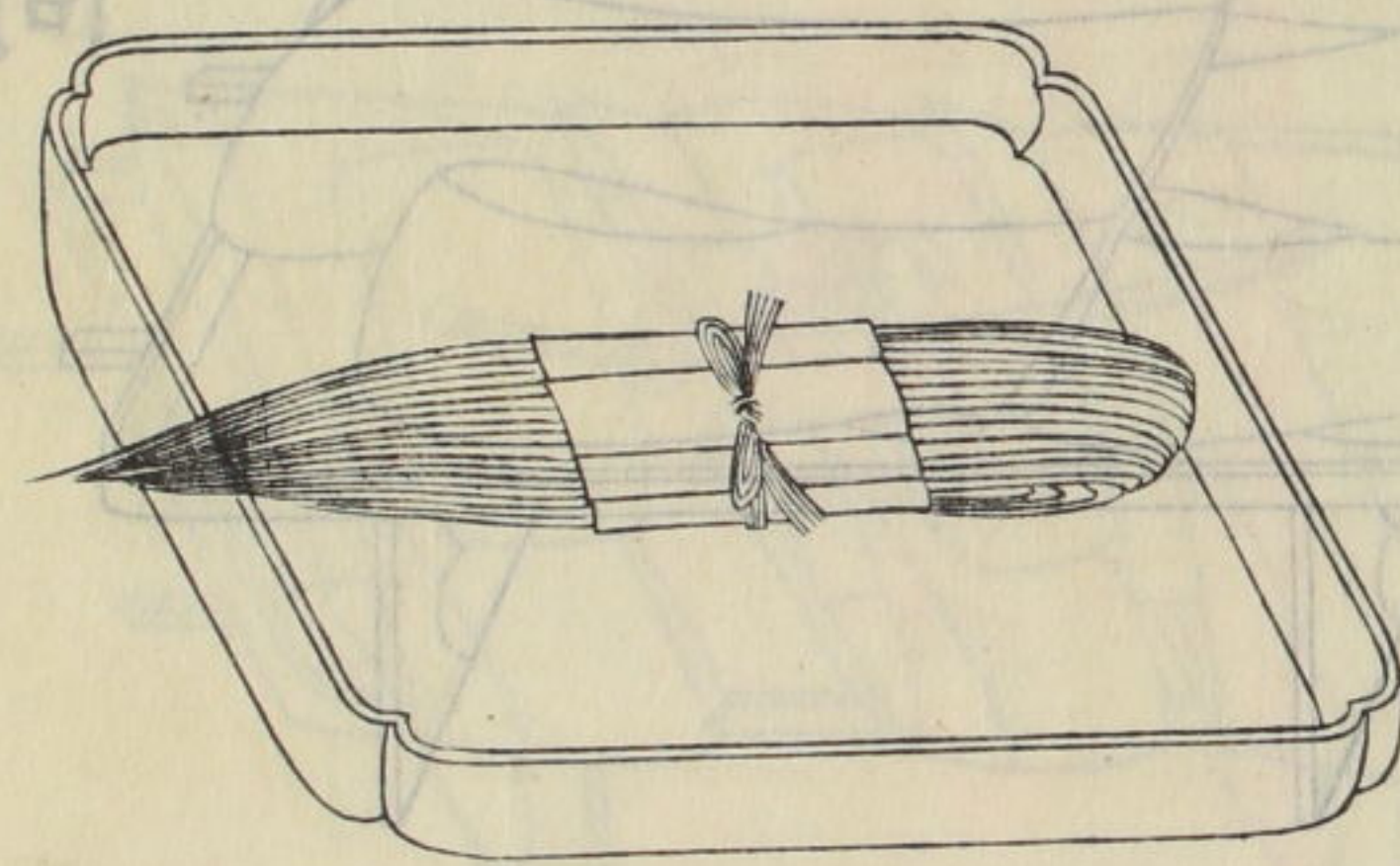
卷物ニテモ數多キ時ハ豎ニ置クヘシ



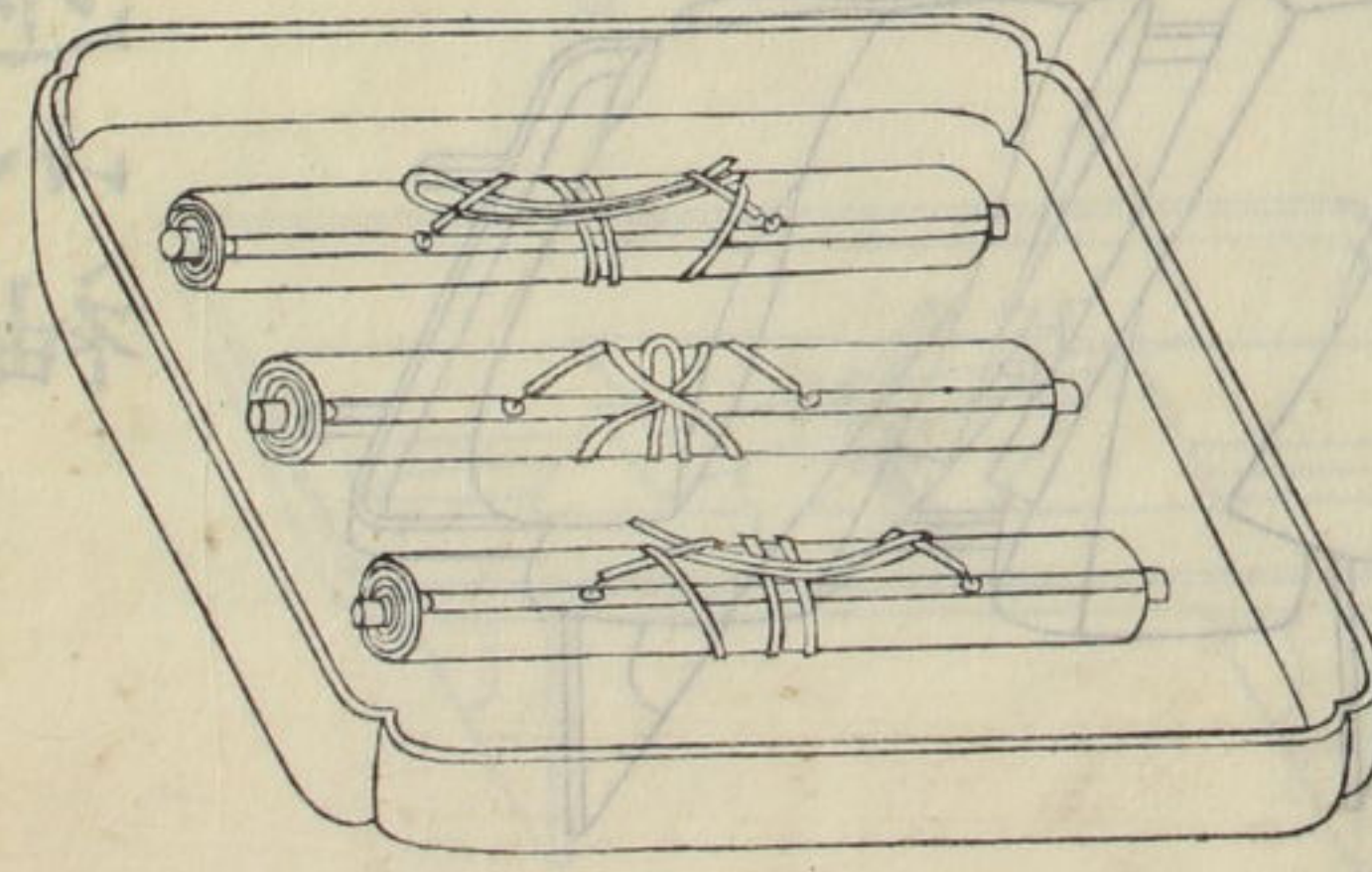
折紙卷物



麻苧

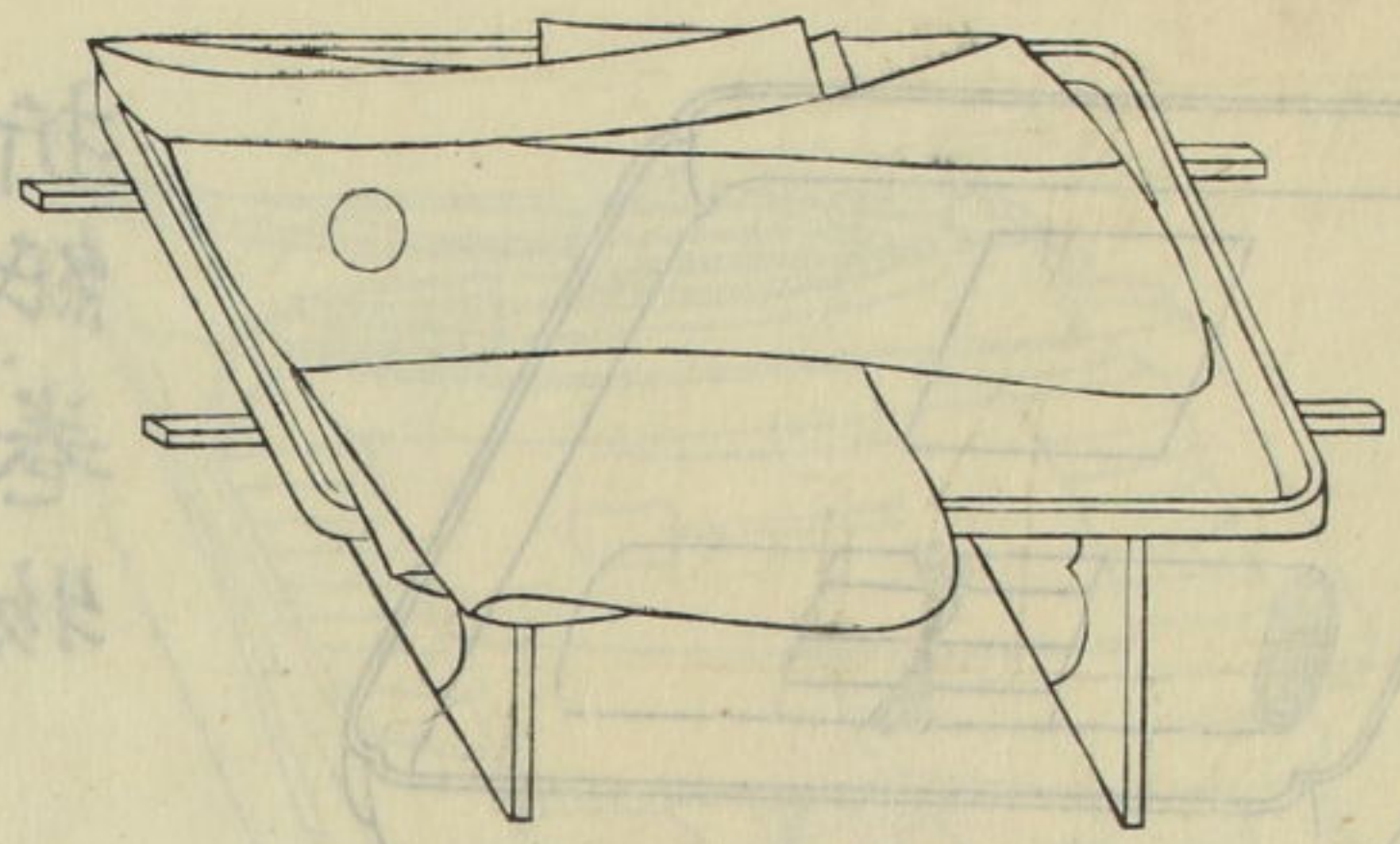


三幅對

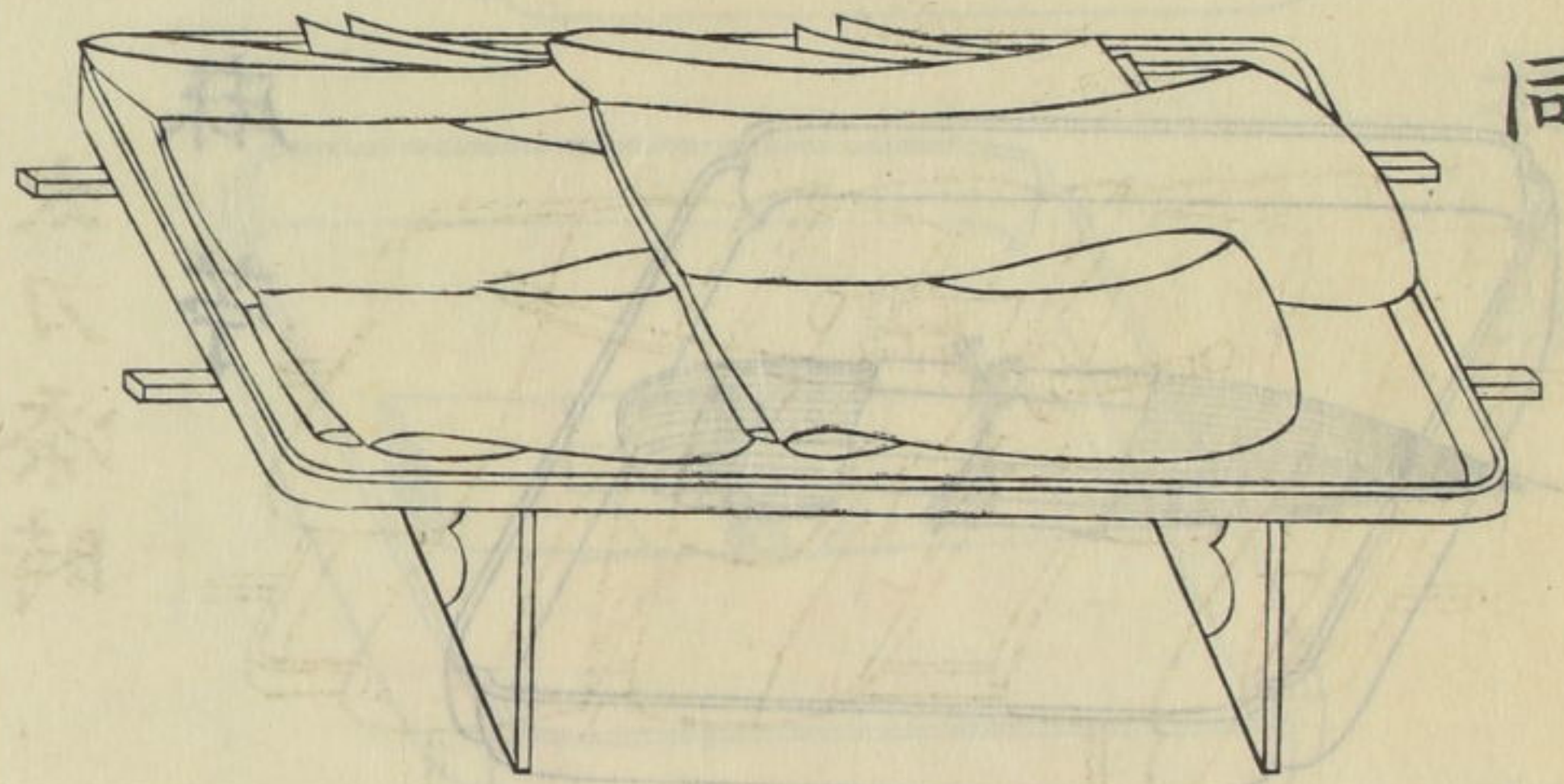




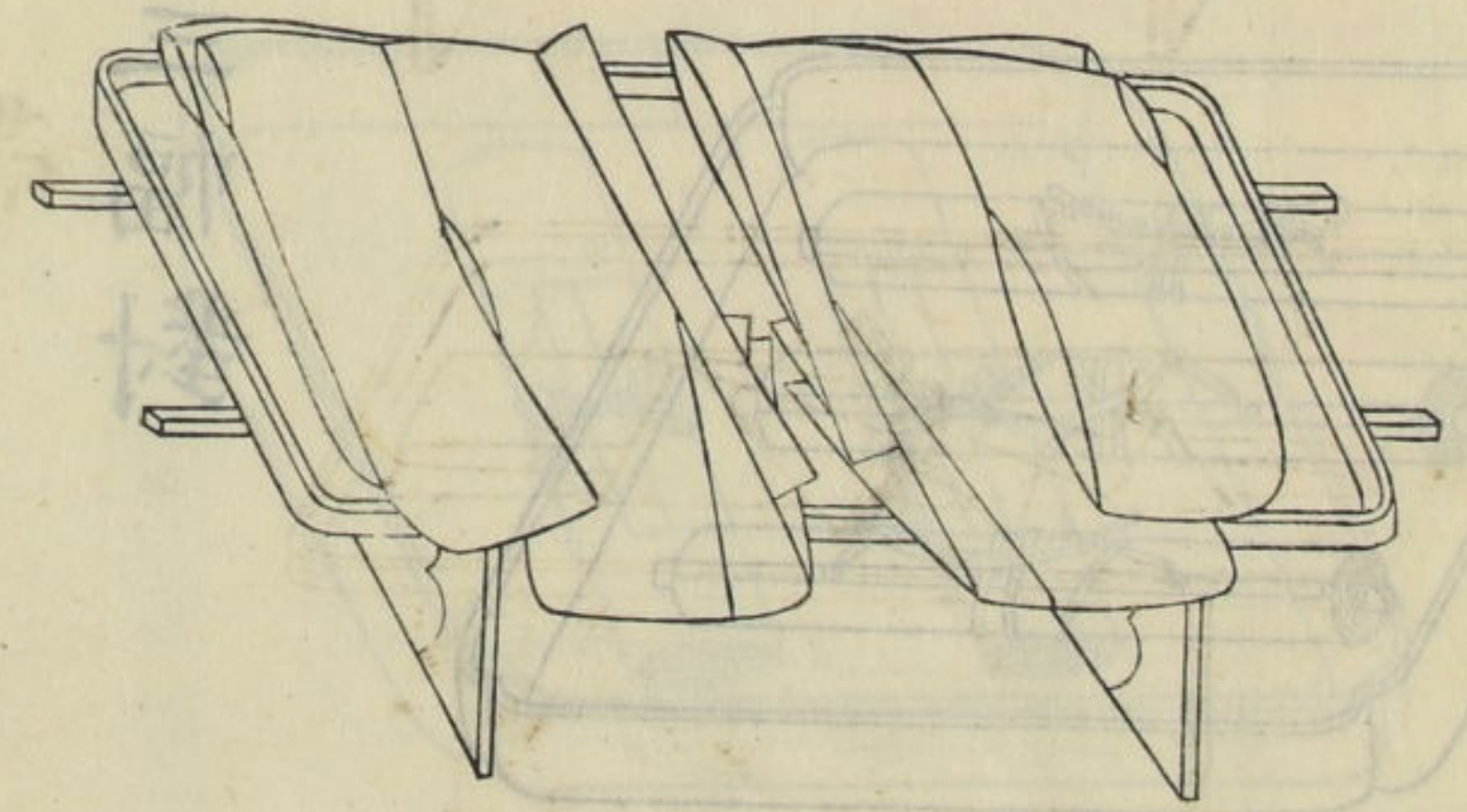
臺小袖



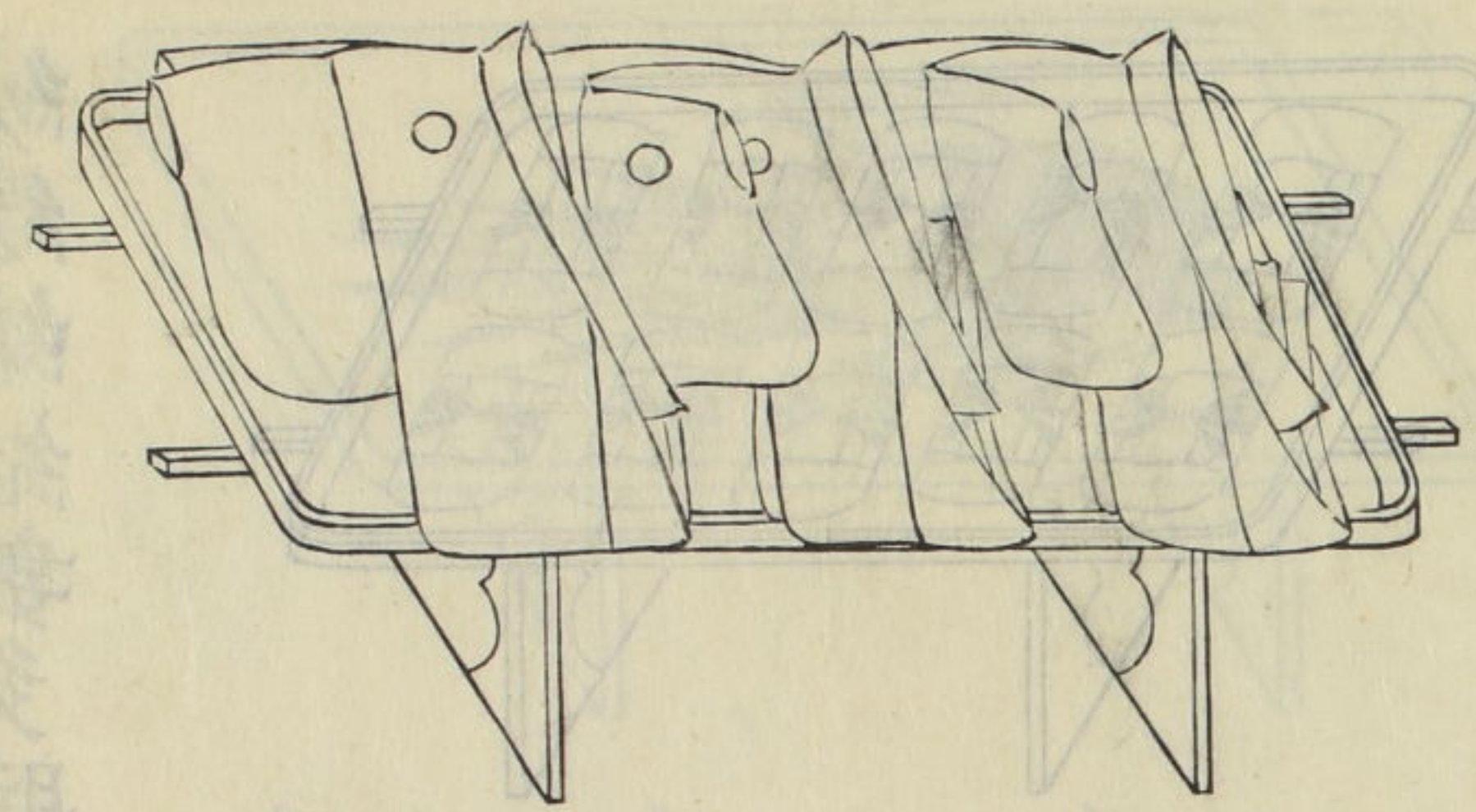
同



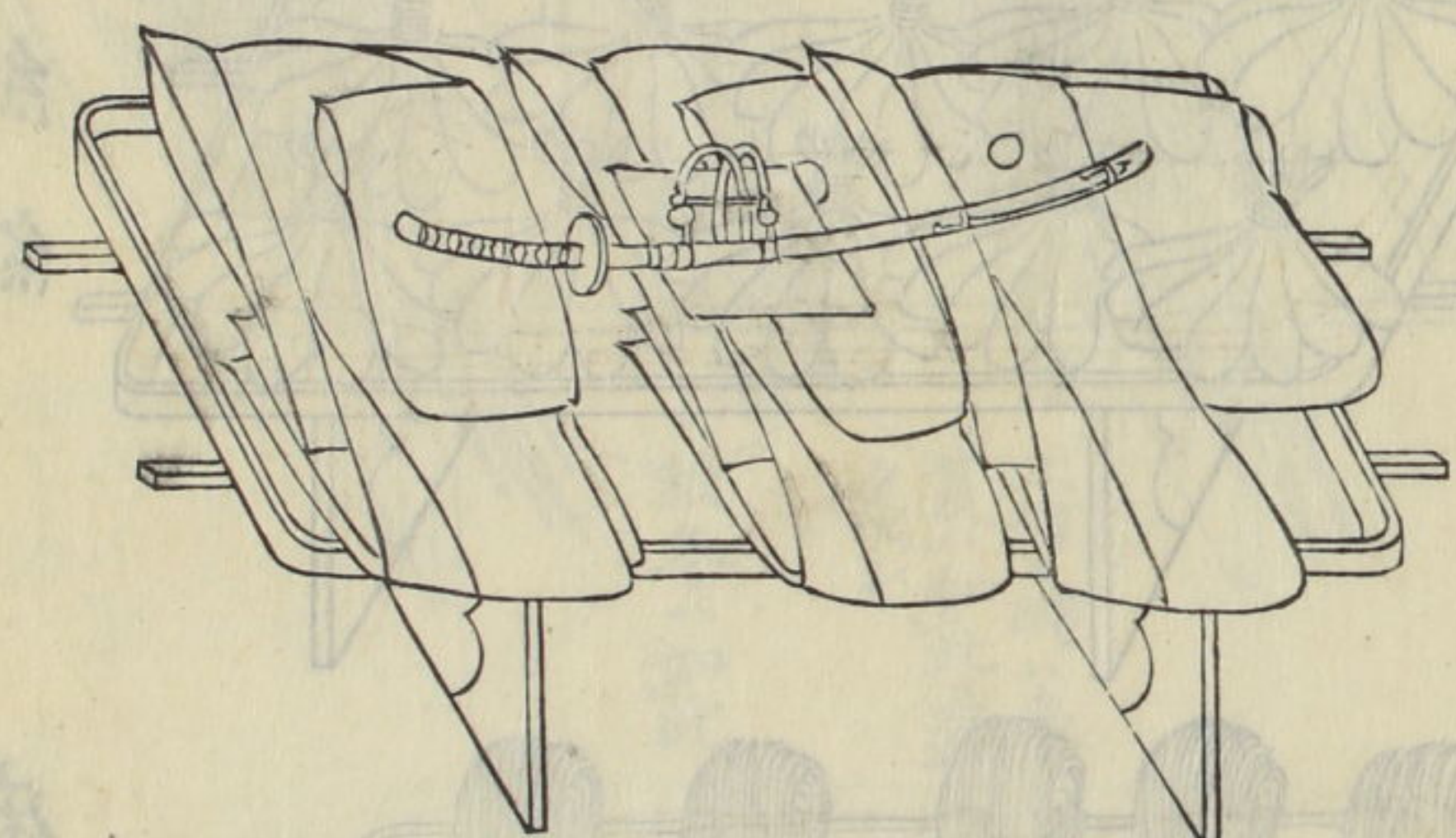
迎小袖



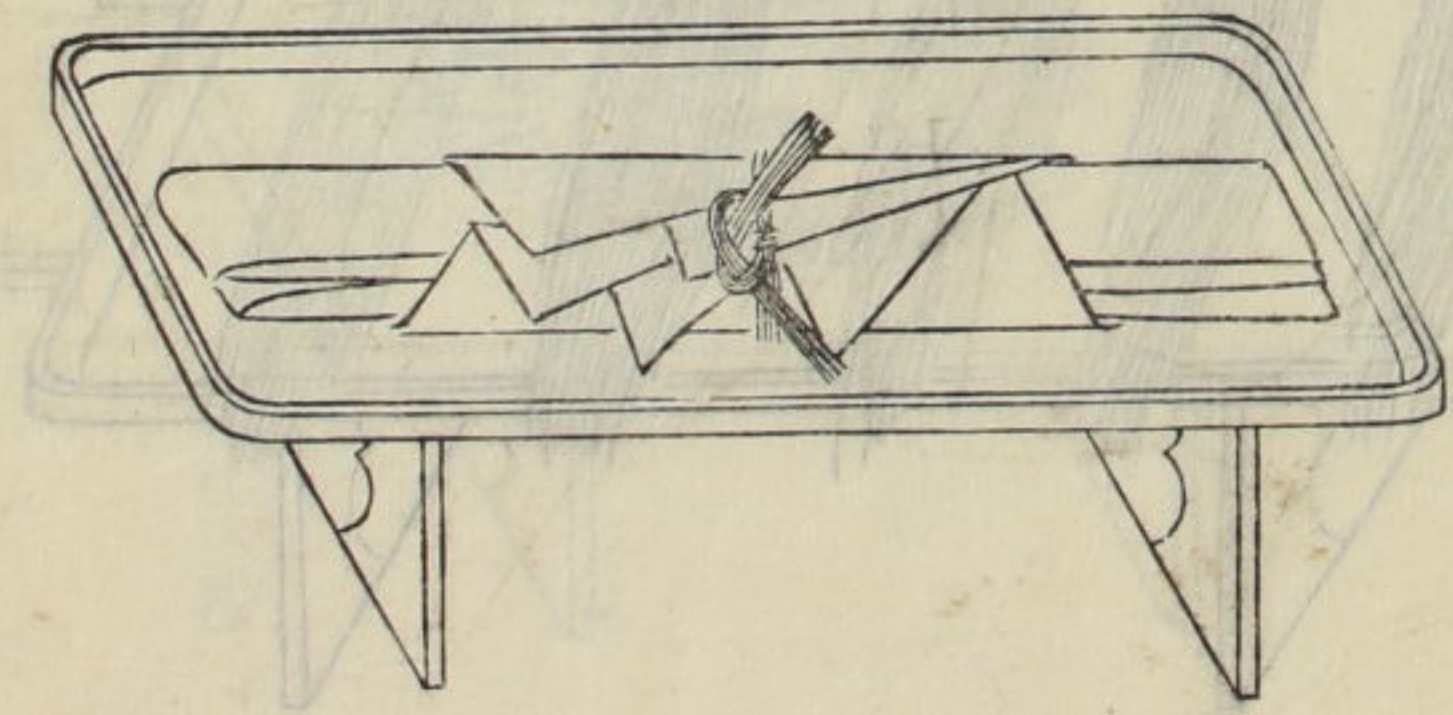
小袖多時



太刀添時



帶

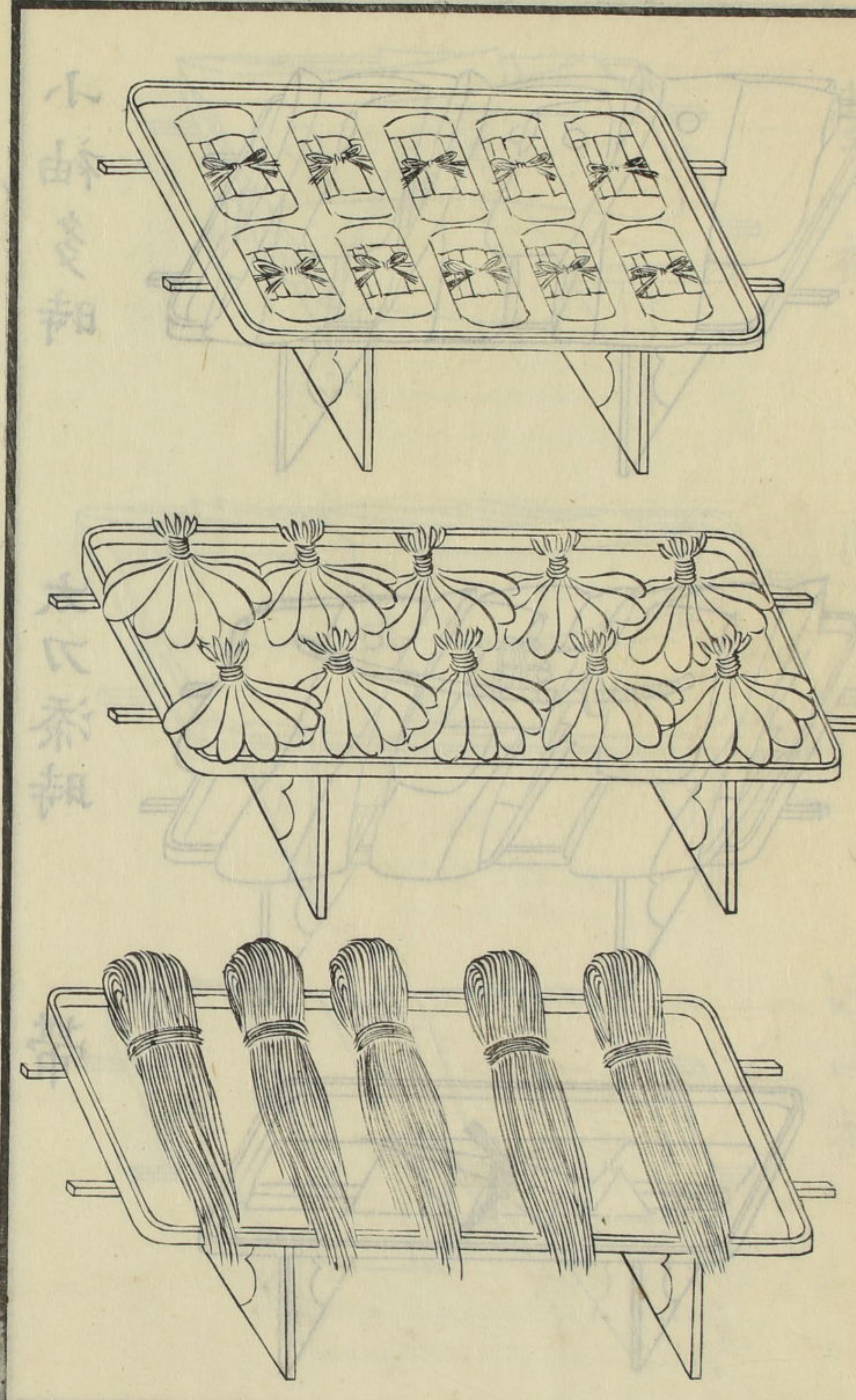




紗綾縮緬數多時

結綿

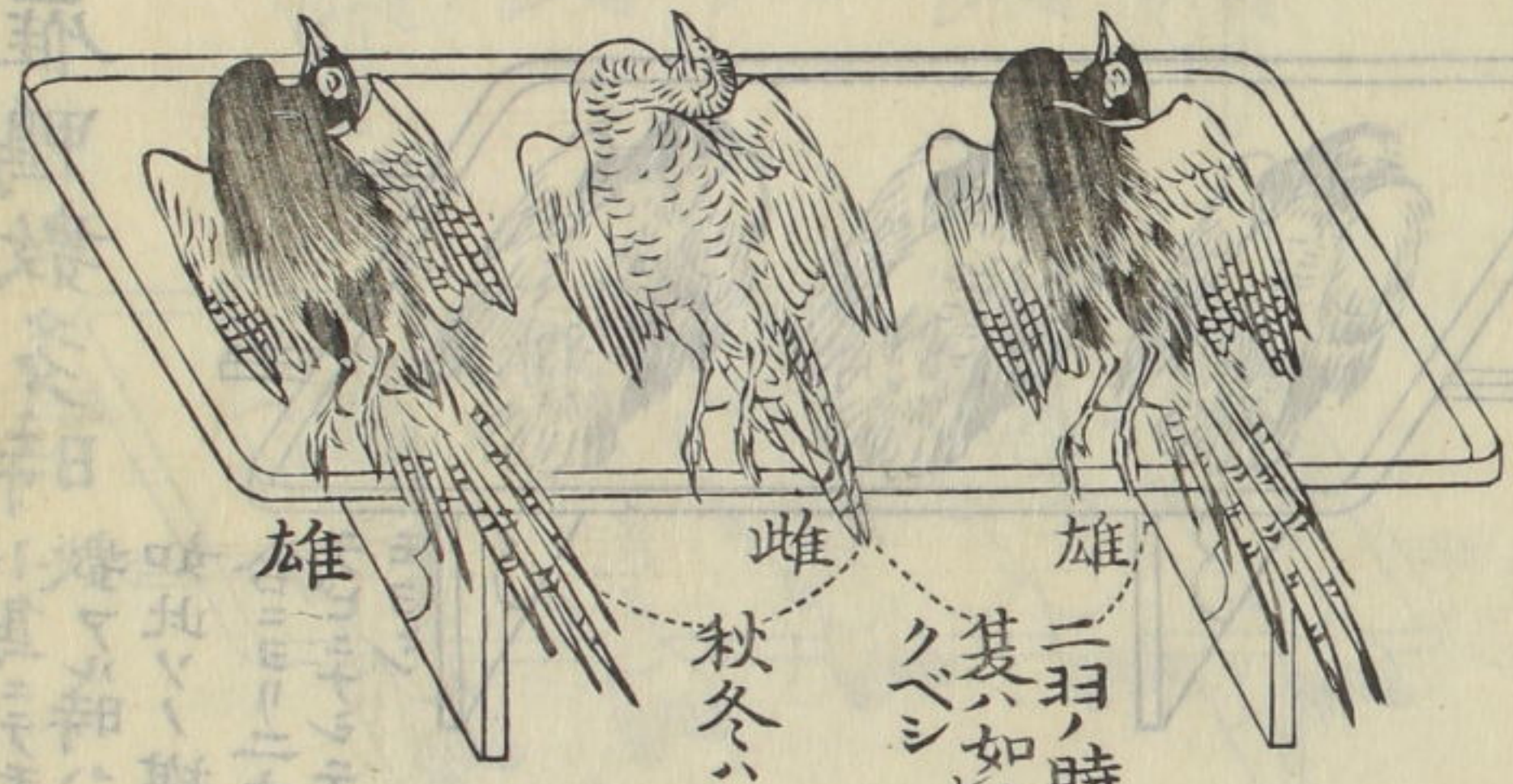
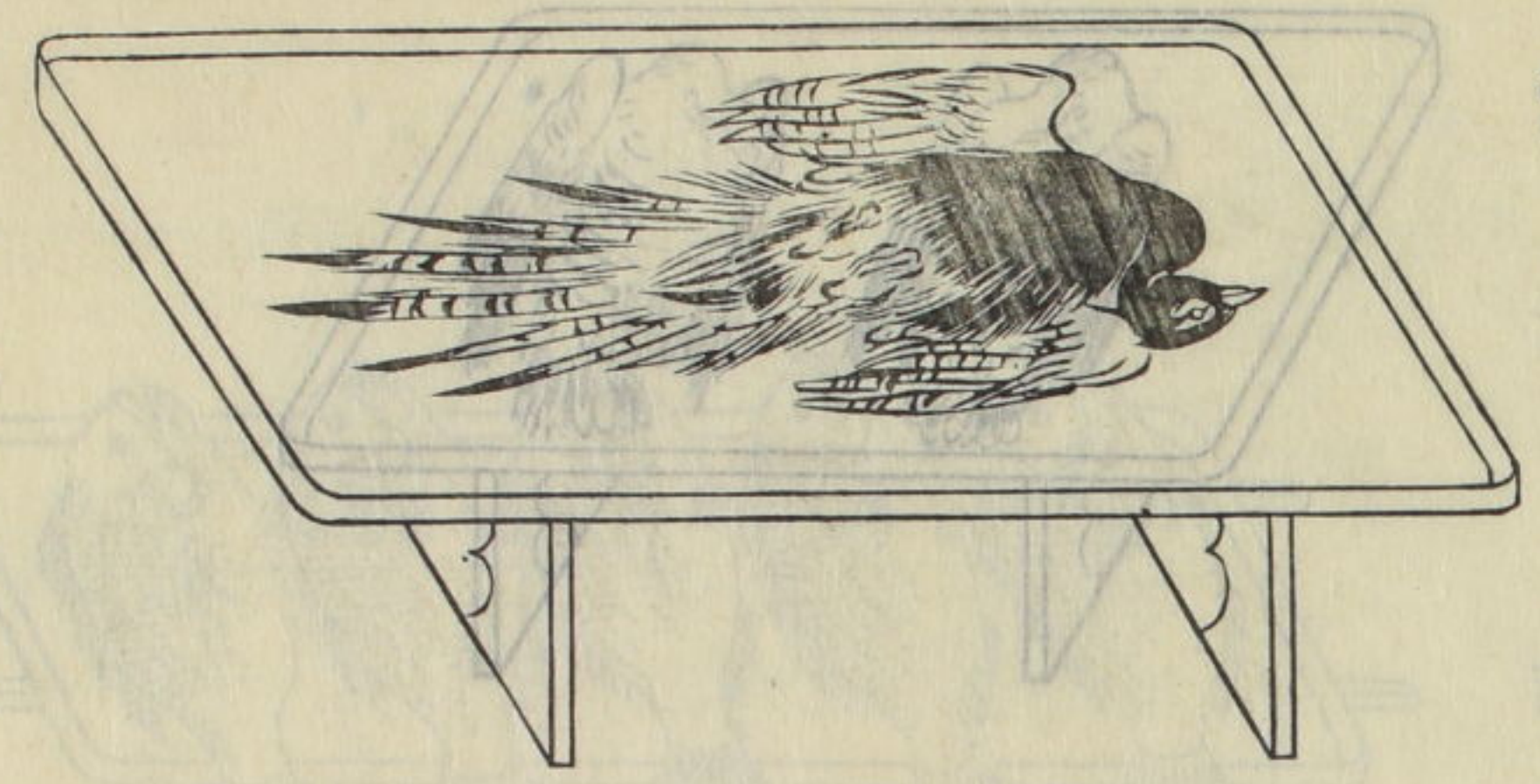
麻苧多時



雉

同數多時

雁鴨之類



二羽、時ハ春  
其ハ如此置  
クベシ

秋冬ハ如此

同發野ノ類  
三月流式法所書抄卷之三  
三二

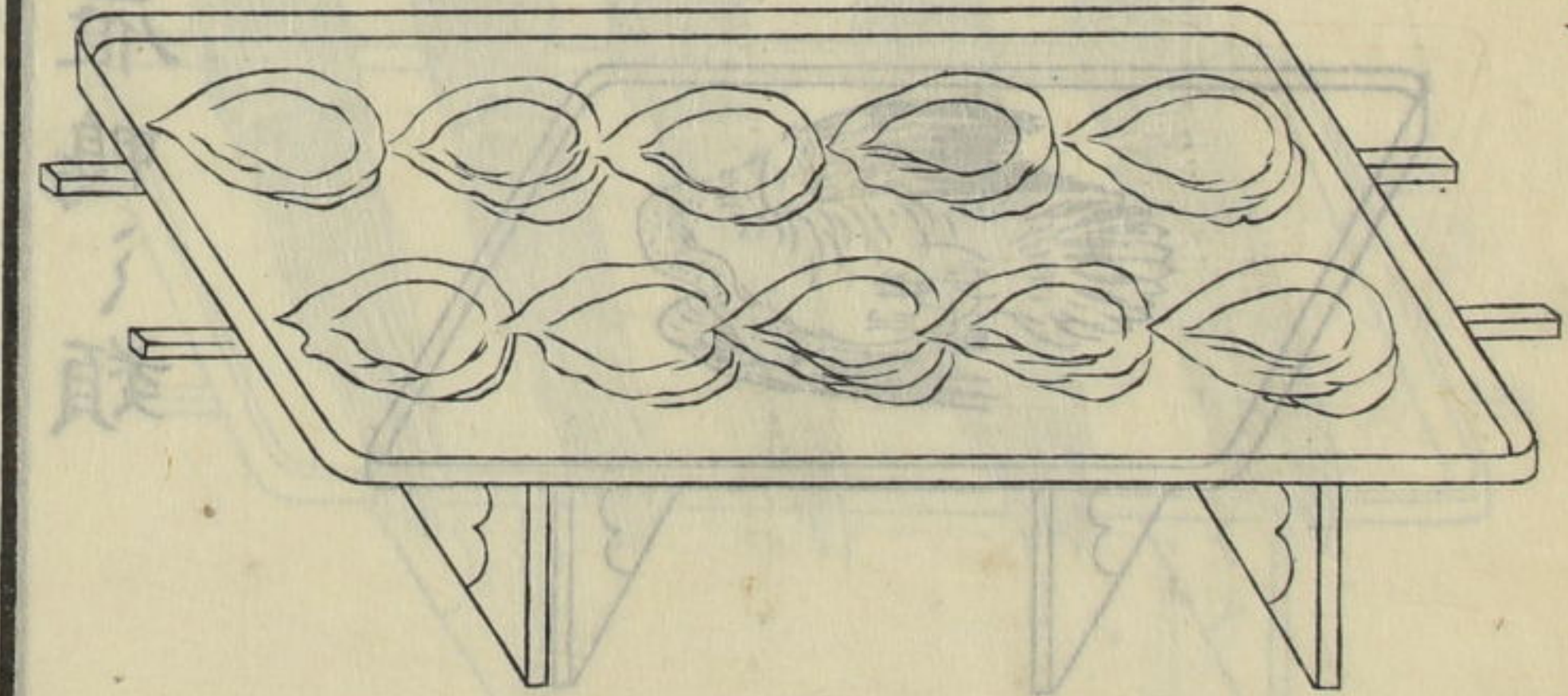
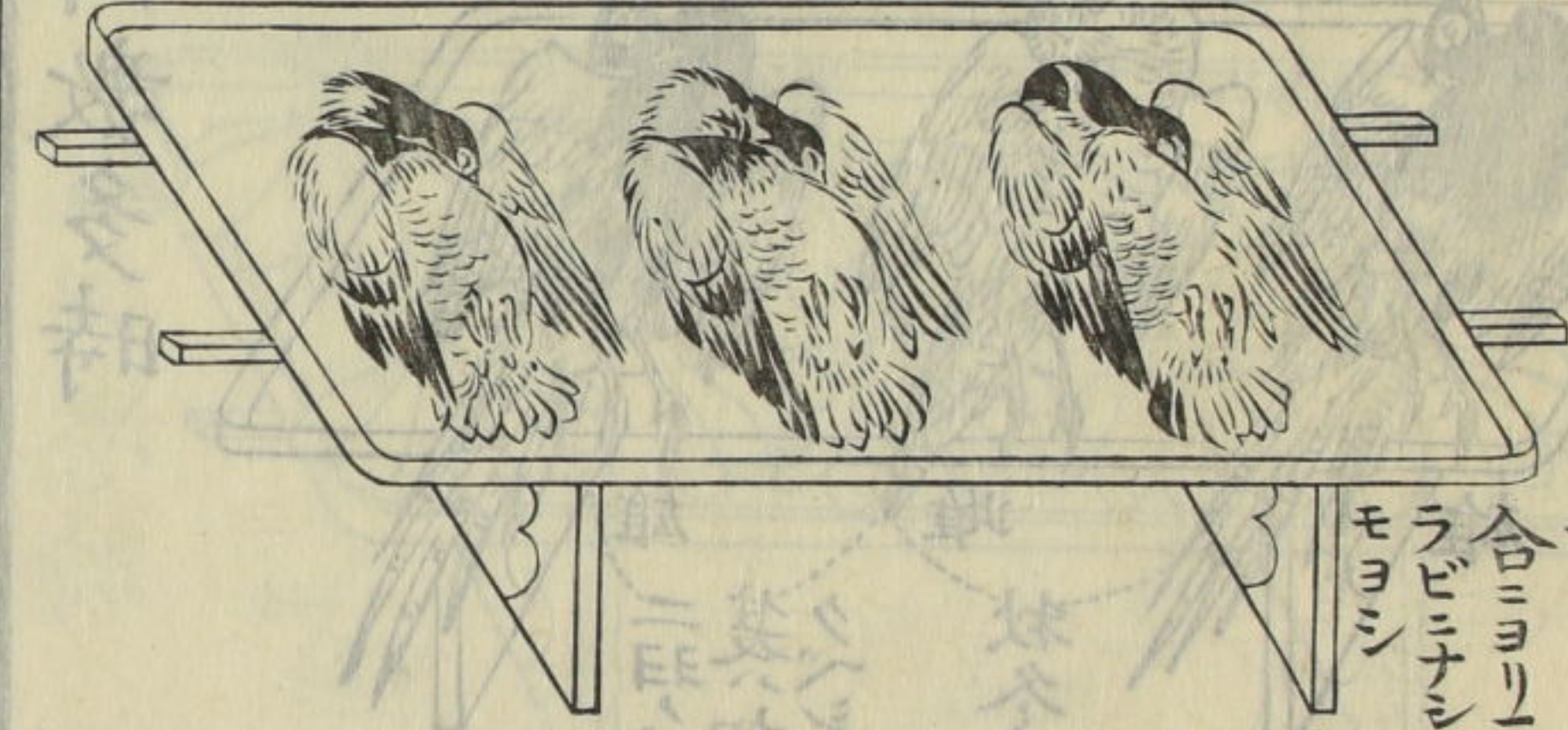
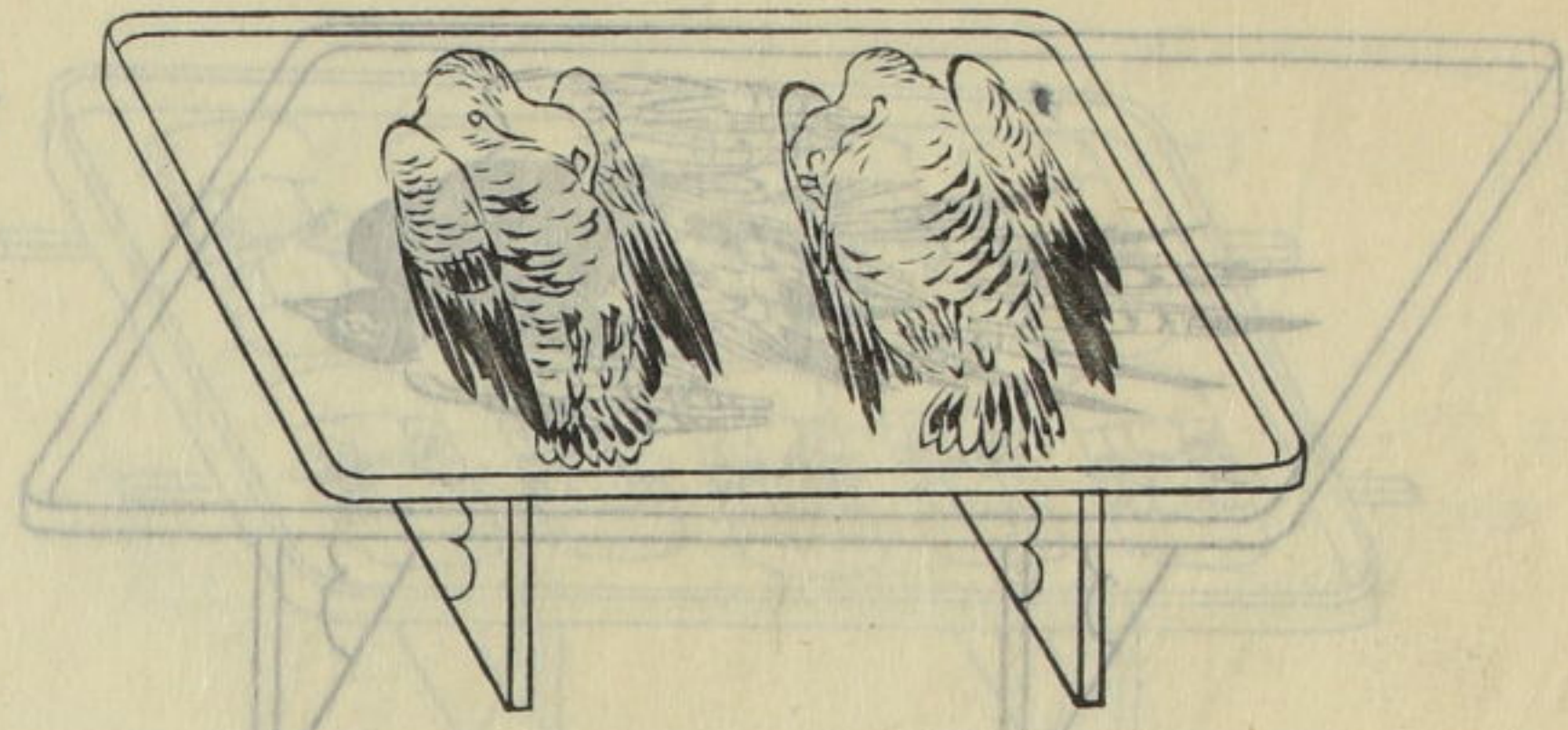


同婚禮之時

雁鴨數多時

小鳥ニテモ  
數アル時ハ  
如此ソノ場  
合ニヨリニテ  
ラビニナシテ  
モヨシ

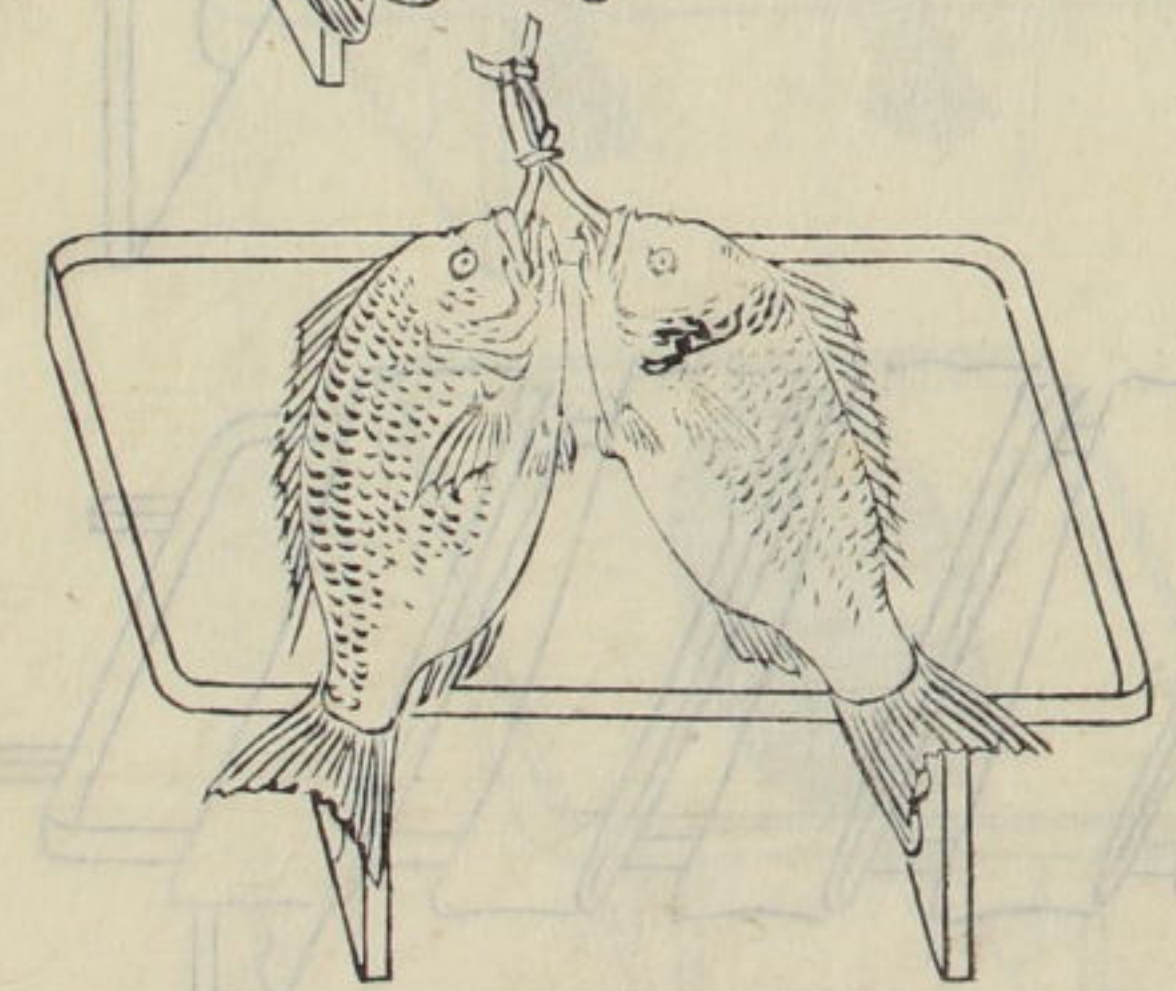
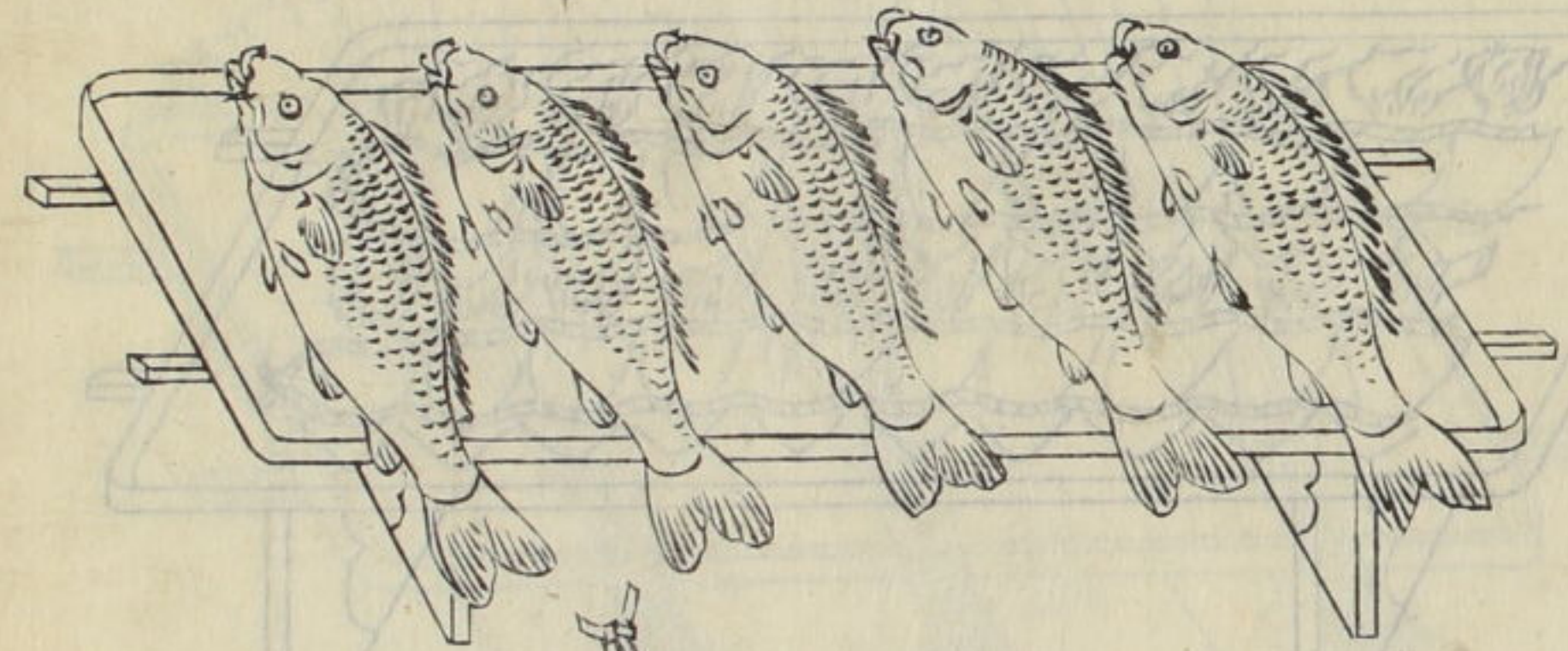
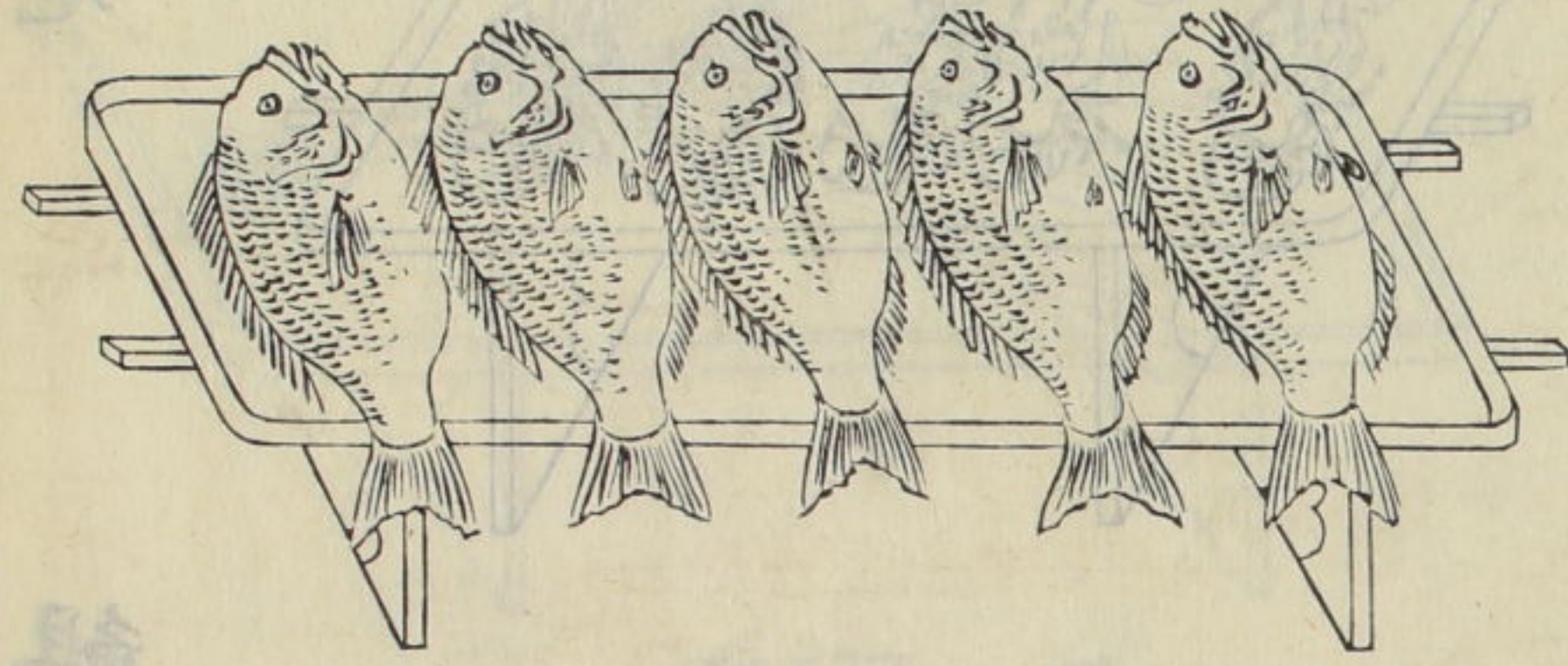
鮑



海魚數多時  
一尾ノ時ハ海  
前ト心得ルベシ

川魚數多時  
一喉ノ時ハ川  
サキト心得ルベシ

掛鯛

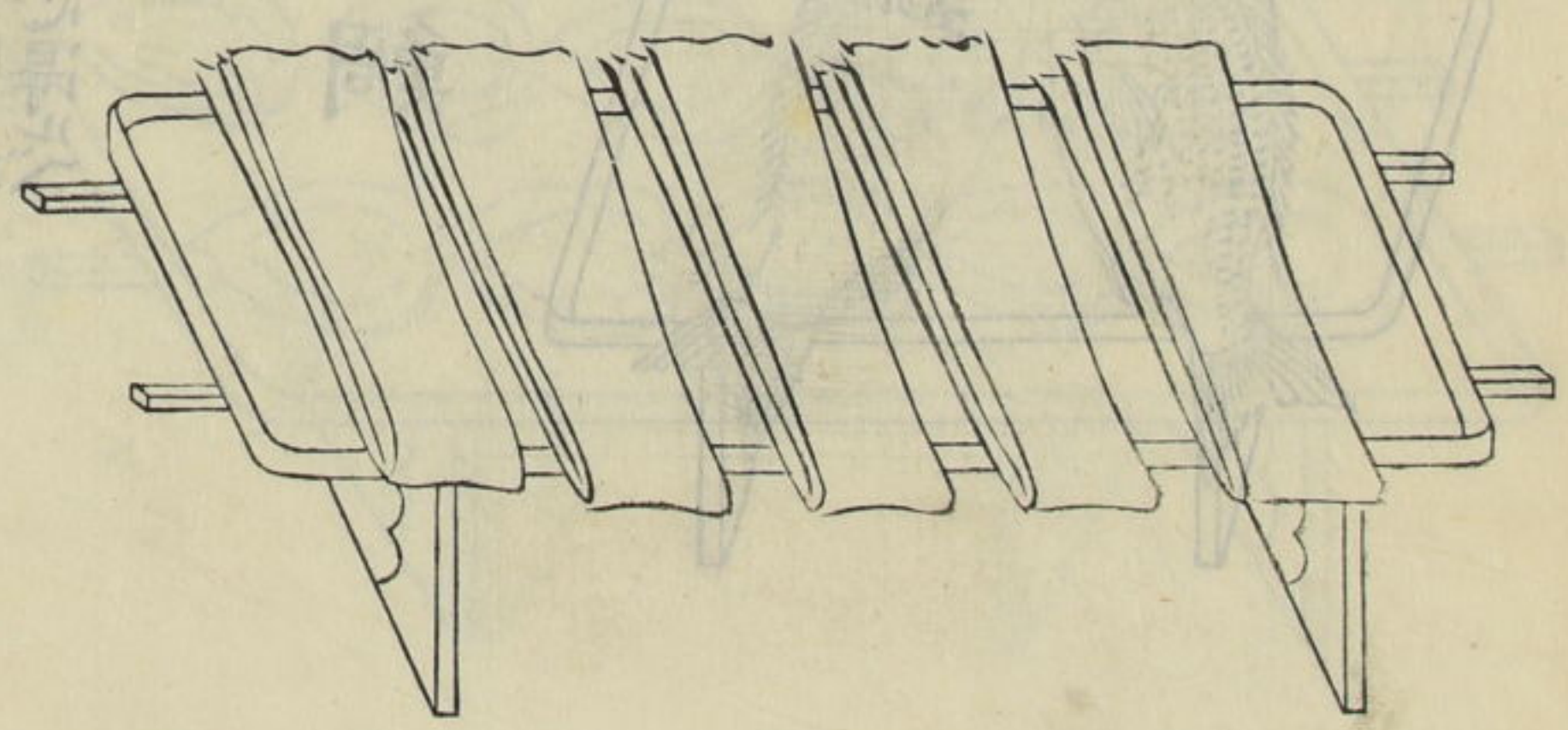
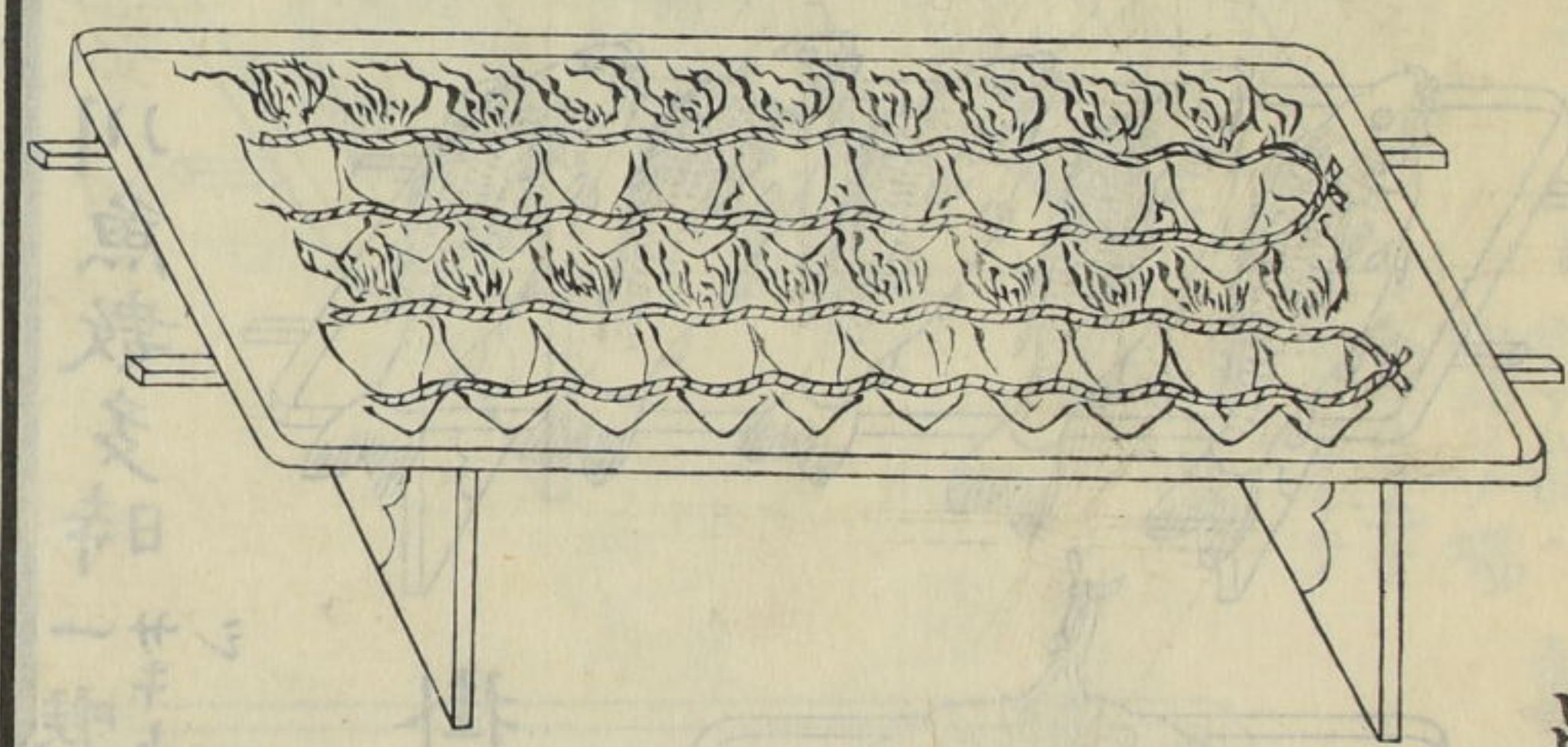
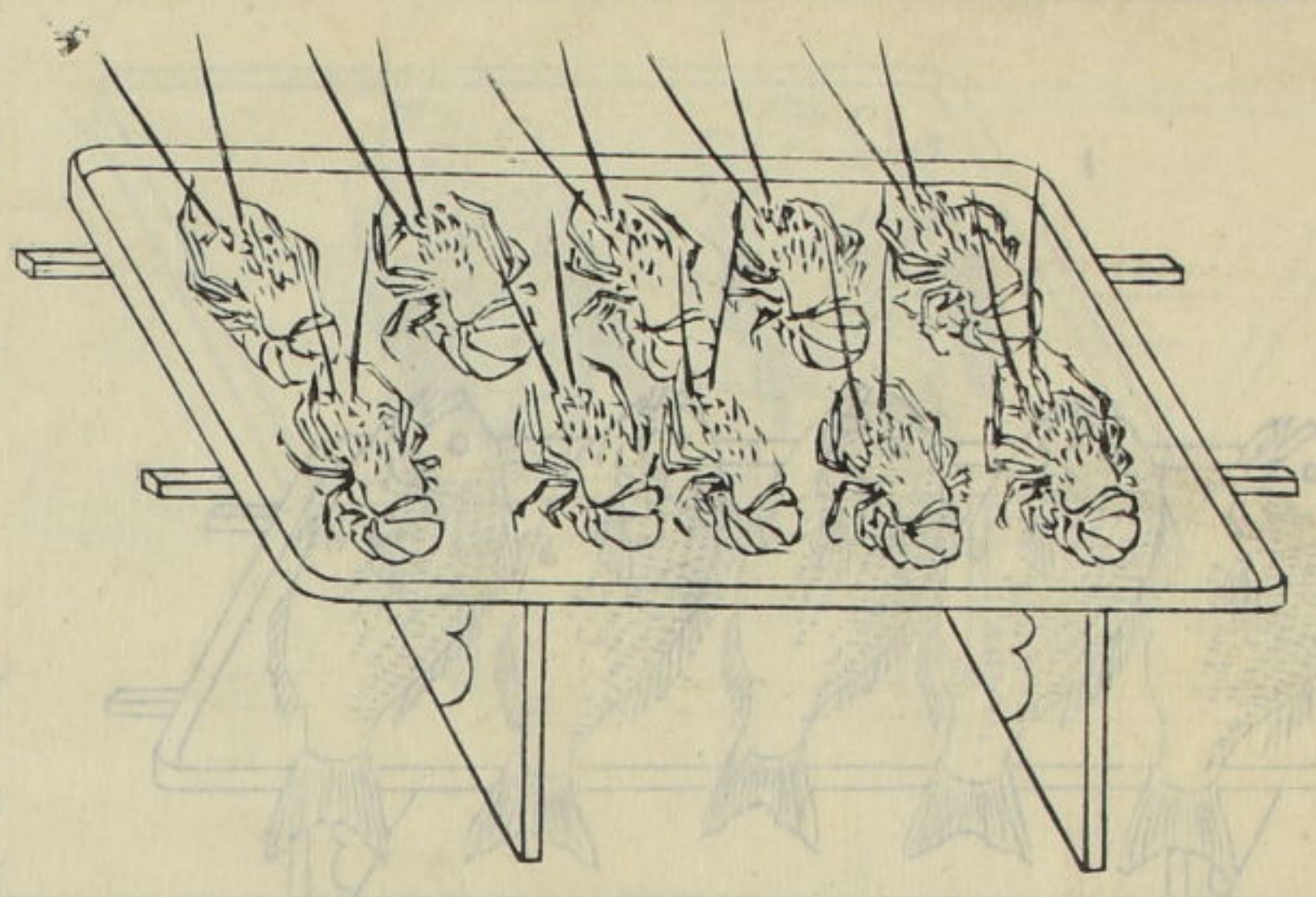




海老

鯛

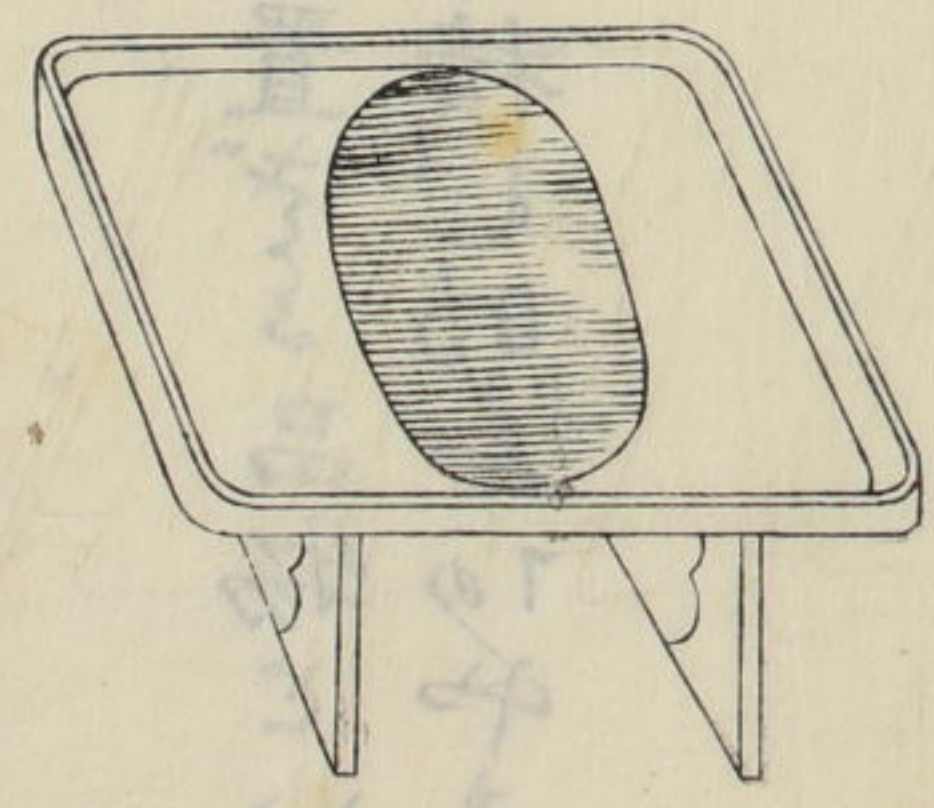
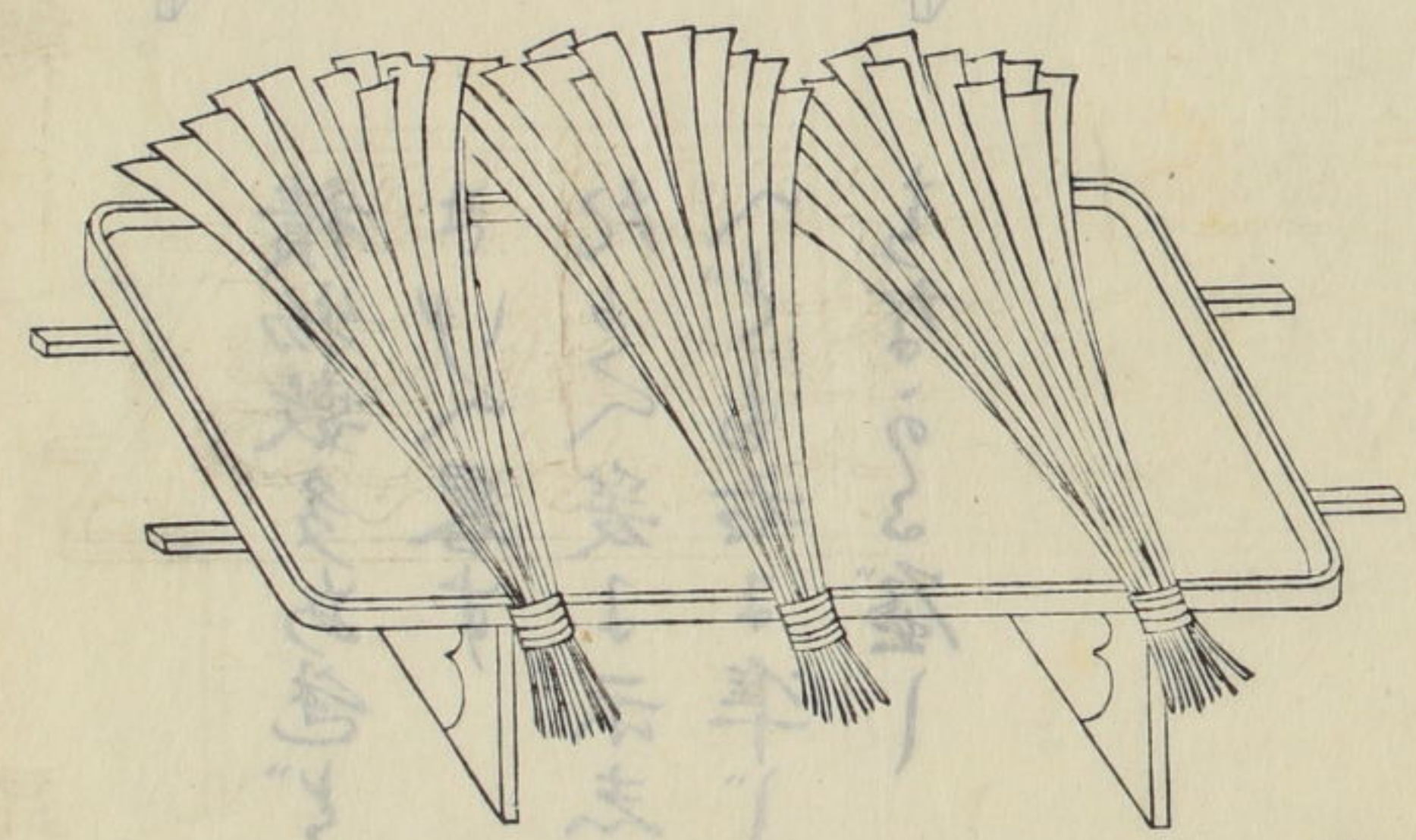
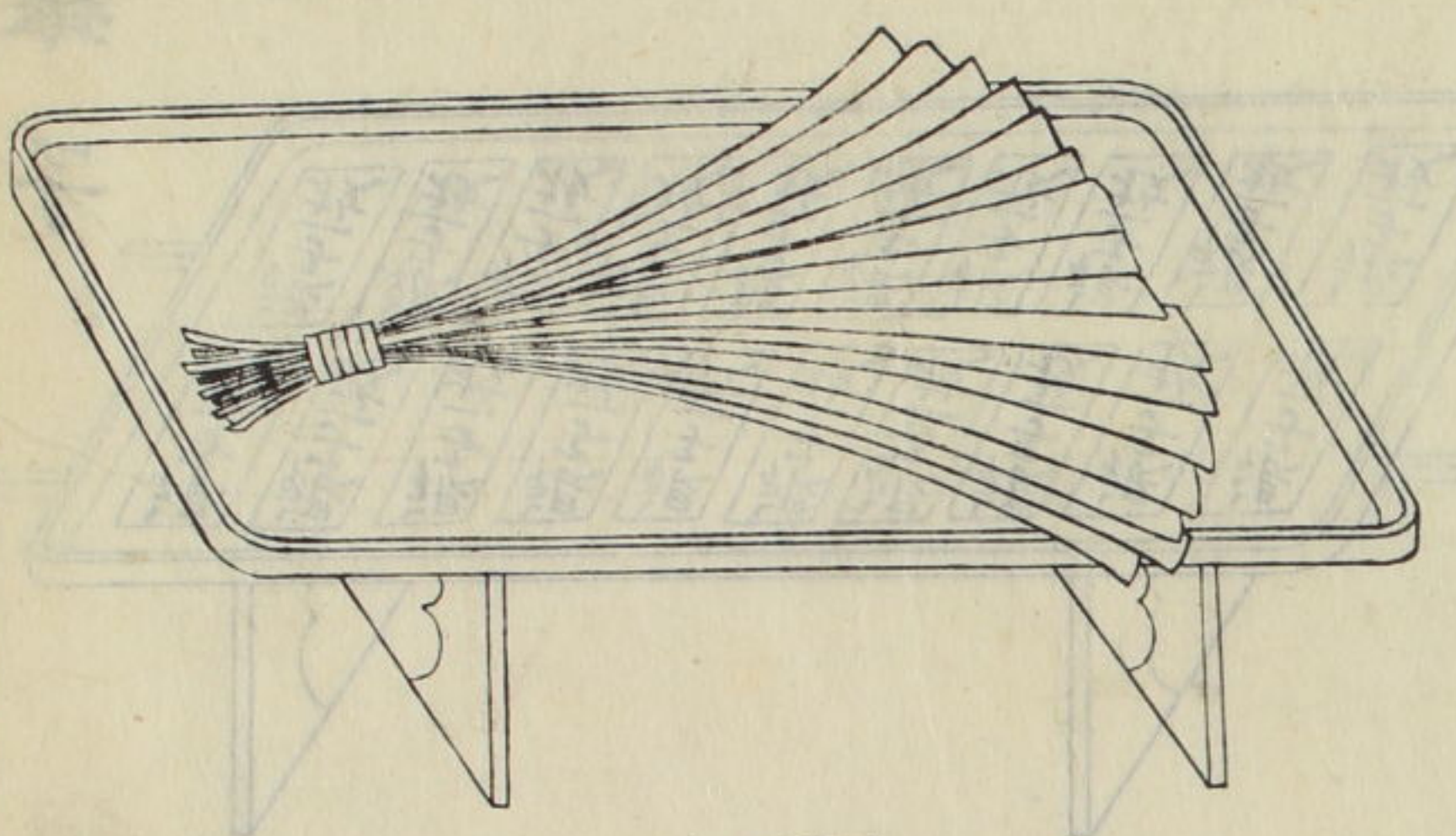
昆布



熨斗

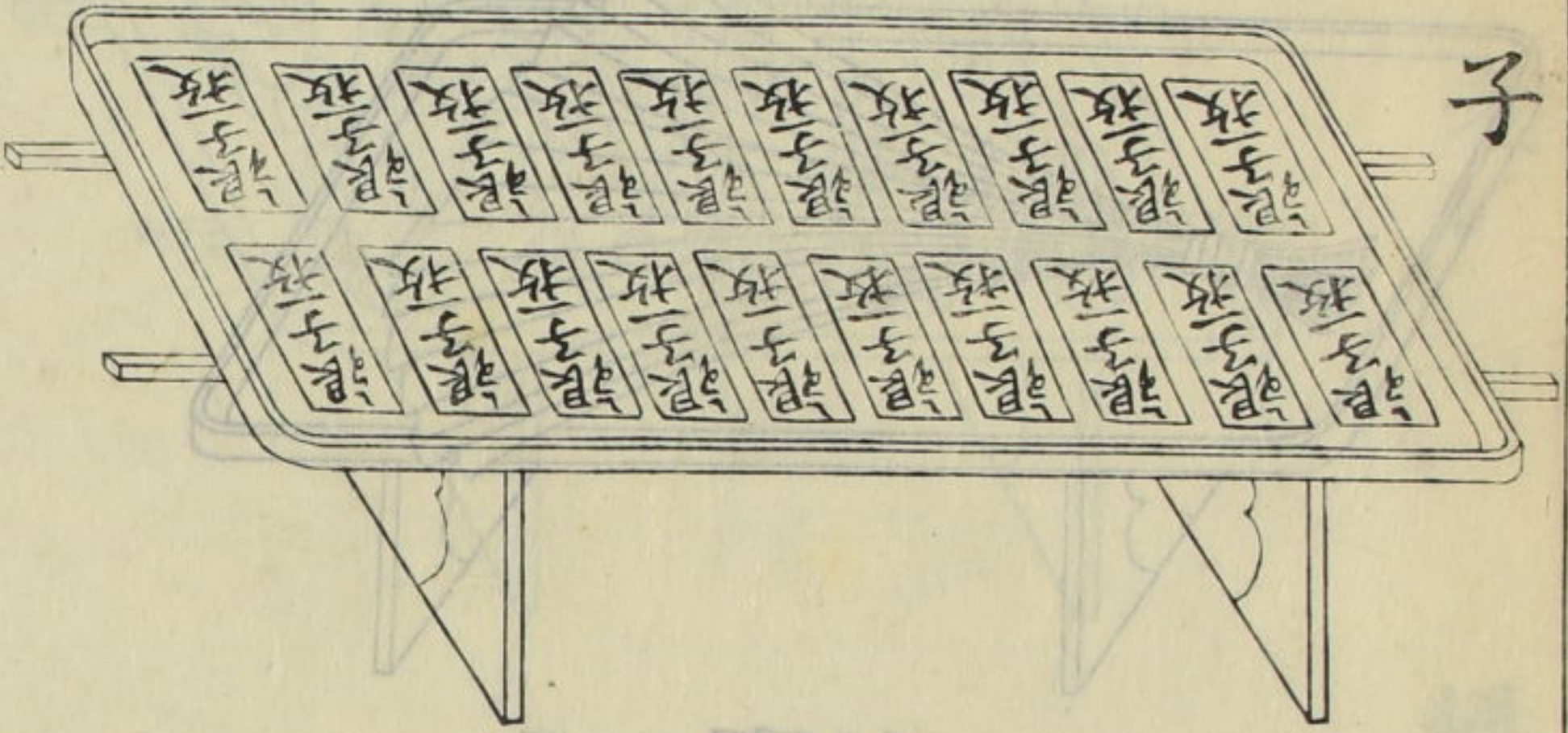
同數多時

黄金





銀子



積物數多あきども爰に記す要なきに  
きりへ畧す  
たとも爰に示志置ざる品物といへども  
右に準じ積む時と何やま  
ちなるを座し

黄金

生間流式法秘書抜萃卷之三 早

生間流式法秘書抜萃卷之三

四十一



